

基本計画書

基本計画書											
事項		記入欄							備考		
計画の区分		研究科の設置									
フリガナ 設置者		コクリツダガクカクシヨシシマカダガク									
フリガナ 大学の名称		シマカダガクカダガクケン									
大学本部の位置		静岡県静岡市駿河区大谷836									
大学の目的		静岡大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的		現代の複雑かつ多面的なウェルビーイングに関わる社会的課題を解決するためには、人文・社会科学と農学を中心とした自然科学を横断する新しい価値を生み出す「総合知」が必要である。本研究科では、この総合知に基づいた新たな価値をもった社会課題のソリューションの創出のために多様なステークホルダーとともに協働できる人材である「共創型人材」を育成し、現在・未来社会の人類のウェルビーイングを実現するために、学際的なアプローチと実践的な教育を通じて、未来の社会をリードする高度な専門的職業人を養成することを目的とする。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】グローバル共創科学部 第14条特例の実施	
	グローバル共創科学研究科 (Graduate School of Global Interdisciplinary Science and Innovation)	年	人	年次 人	人			年 第 年次			
	グローバル共創科学専攻 (Department of Global Interdisciplinary Science and 計	2	12	—	24	修士（共創科学） (Master of Arts and Sciences)	農学関係	令和9年4月 第1年次	静岡県静岡市駿河区大谷836		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		山岳流域研究院〔定員増〕 (10) (令和9年4月) 総合科学技術研究科農学専攻〔定員増〕 (2) (令和9年4月) ※研究科等連係課程実施基本組織である山岳流域研究院の定員増に伴う定員増 人文社会科学研究科経済専攻〔定員増〕 (1) (令和9年4月) ※研究科等連係課程実施基本組織である山岳流域研究院の定員増に伴う定員増									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	グローバル共創科学研究科	21科目		27科目		4科目		52科目		30単位	
研究科等の名称				専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
				教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	グローバル共創科学研究科 グローバル共創科学専攻（修士課程）			7人 (7)	8人 (8)	2人 (2)	4人 (4)	21人 (21)	0人 (0)	9人 (9)	
	計			7 (7)	8 (8)	2 (2)	4 (4)	21 (21)	— (—)	— (—)	
既	人文社会科学研究科 臨床人間科学専攻（修士課程）			8 (8)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	16 (16)	
	比較地域文化専攻（修士課程）			19 (20)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	27 (28)	0 (0)	0 (0)	
	経済専攻（修士課程）			8 (10)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	0 (0)	
	教育学研究科 共同教科開発学専攻（博士後期課程）			10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	教育実践高度化専攻（専門職学位課程）			44 (44)	21 (25)	16 (15)	10 (8)	91 (92)	0 (0)	7 (7)	
	総合科学技術研究科 情報学専攻（修士課程）			28 (34)	18 (18)	5 (5)	11 (11)	62 (68)	0 (0)	102 (105)	
	理学専攻（修士課程）			21 (28)	27 (27)	7 (7)	4 (4)	59 (66)	0 (0)	16 (16)	
	工学専攻（修士課程）			65 (71)	67 (70)	4 (4)	19 (17)	155 (162)	0 (0)	187 (187)	

設 分	農学専攻（修士課程）	28 (29)	23 (23)	0 (0)	9 (9)	60 (61)	0 (0)	5 (5)
	光医工学研究科 光医工学共同専攻（博士後期課程）	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	22 (22)
	自然科学系教育部 ナノビジョン工学専攻（博士後期課程）	10 (10)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	19 (19)
	光・ナノ物質機能専攻（博士後期課程）	14 (16)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (22)	0 (0)	10 (10)
	情報科学専攻（博士後期課程）	32 (34)	19 (19)	0 (0)	1 (1)	52 (54)	0 (0)	9 (9)
	環境・エネルギーシステム専攻（博士後期課程）	15 (16)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	30 (31)	0 (0)	9 (9)
	バイオサイエンス専攻（博士後期課程）	14 (15)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	18 (19)	0 (0)	3 (3)
	山岳流域研究院（修士課程）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
	計	326 (355)	224 (232)	47 (46)	54 (50)	651 (683)	— (—)	— (—)
合 計		333 (362)	232 (240)	49 (48)	58 (54)	672 (704)	— (—)	— (—)
職 種		専 属		その他		計		
事 務 職 員		人 460 (460)		人 40 (40)		人 500 (500)		
技 術 職 員		95 (95)		18 (18)		113 (113)		
図 書 館 職 員		15 (15)		0 (0)		15 (15)		
そ の 他 の 職 員		109 (109)		30 (30)		139 (139)		
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		679 (679)		88 (88)		767 (767)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地		366, 565㎡	— ㎡	— ㎡		366, 565㎡				
	そ の 他		3, 734, 554㎡	— ㎡	— ㎡		3, 734, 554㎡				
	合 計		4, 101, 119㎡	— ㎡	— ㎡		4, 101, 119㎡				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			182, 881㎡ (183, 054㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)		182, 881㎡ (183, 054㎡)				
講義室等・新設研究科等 の 専 任 教 員 研 究 室			講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室		大学全体		
			1 4 0 室	5 3 1 室	1 4 2 室		2 1 室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		機械・器具 点		図書、学術雑誌 は研究科単位で の特定不能のため、大学全体の 数		
			電子図書 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		点				
	グローバル共創科学研究科		1, 212, 700 [336, 040] (1, 209, 000 [334, 340])	20, 000 [14, 400] (19, 500 [14, 300])	28, 810 [15, 257] (28, 850 [15, 267])	8, 870 [8, 860] (8, 870 [8, 860])	32 (32)	0 (0)			
	計		1, 212, 700 [336, 040] (1, 209, 000 [334, 340])	20, 000 [14, 400] (19, 500 [14, 300])	28, 810 [15, 257] (28, 850 [15, 267])	8, 870 [8, 860] (8, 870 [8, 860])	32 (32)	0 (0)			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分		開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	国費による (運営費交付金)	
		教員 1 人当り研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		設備購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生 1 人当り 納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次			
				— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
	大 学 等 の 名 称		国立大学法人 静岡大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
	【学部】		年	人	年次 人	人		倍			
	人文社会科学部							1. 03			
	社会学科		4	60	—	240	学士 (社会学又は学術)	1. 05	昭和57年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地	
	言語文化学科		4	69	—	276	学士 (文学又は学術)	1. 06	平成4年度	同上	
	法学科		4	84	3年次 2	340	学士 (法学又は学術)	1. 02	昭和53年度	同上	
	法学科 (夜間主コース)		4	30	3年次 3	126	学士 (法学)	0. 99	平成8年度	同上	
	経済学科		4	142	—	568	学士 (経済学又は学術)	1. 03	昭和53年度	同上	
	経済学科 (夜間主コース)		4	30	—	120	学士 (経済学)	1. 01	平成8年度	同上	
	教育学部							1. 02			
	学校教育教員養成課程		4	260	—	1040	学士 (教育学)	1. 02	平成10年度	同上	
	情報学部							1. 04			
	情報科学科		4	98	—	392	学士 (情報学)	1. 04	平成8年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1	
	行動情報学科		4	69	—	276	学士 (情報学)	1. 03	平成28年度	同上	
	情報社会学科		4	68	—	272	学士 (情報学又は学術)	1. 04	平成8年度	同上	

既設大学等の状況	理学部						1. 02		
	数学科	4	38	—	152	学士（理学）	0. 99	昭和40年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地
	物理学科	4	48	—	192	学士（理学又は学術）	1. 06	昭和40年度	同上
	化学科	4	48	—	192	学士（理学又は学術）	1. 01	昭和40年度	同上
	生物科学科	4	48	—	192	学士（理学又は学術）	1. 05	平成18年度	同上
	地球科学科	4	48	—	192	学士（理学又は学術）	1. 00	平成18年度	同上
	工学部						1. 02		
	機械工学科	4	160	—	640	学士（工学又は学術）	1. 02	平成7年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1
	電気電子工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1. 04	平成7年度	同上
	電子物質科学科	4	110	—	440	学士（工学）	1. 01	平成25年度	同上
	化学バイオ工学科	4	110	—	440	学士（工学又は学術）	1. 02	平成25年度	同上
	数理システム工学科	4	50	—	200	学士（工学）	1. 01	平成25年度	同上
	農学部						1. 00		
	生物資源科学科	4	105	3年次7	434	学士（農学又は学術）	1. 00	平成28年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地
	応用生命科学科	4	70	3年次3	286	学士（農学）	1. 00	平成28年度	同上
	グローバル共創科学部						1. 00		
	グローバル共創科学科	4	115	—	460	学士（学術）	1. 00	令和5年度	同上
	【大学院】								
	人文社会科学研究科						0. 95		
	臨床人間科学専攻	2	11	—	22	修士（臨床人間科学）	1. 04	平成15年度	同上
	比較地域文化専攻	2	10	—	20	修士（文学）	0. 95	平成9年度	同上
	経済専攻	2	14	—	28	修士（経済学）	0. 89	平成17年度	同上
	教育学研究科						1. 01		
	共同教科開発学専攻	3	4	—	12	博士（教育学）	1. 33	平成24年度	同上
	教育実践高度化専攻	2	45	—	90	教職修士（専門職）	0. 97	令和2年度	同上
	総合科学技術研究科						1. 14		
	情報学専攻	2	85	—	170	修士（情報学）	1. 21	平成27年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1
	理学専攻	2	69	—	138	修士（理学）	1. 12	平成27年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地
	工学専攻	2	322	—	644	修士（工学）	1. 09	平成27年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1
	農学専攻	2	82	—	164	修士（農学）	1. 25	平成27年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地

	光医工学研究科					1. 13			
	光医工学共同専攻	3	5	—	15	博士（光医工学）	1. 13	平成30年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	自然科学系教育部						1. 01		
	ナノビジョン工学専攻	3	10	—	30	博士 （学術又は工学）	0. 30	平成18年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	光・ナノ物質機能専攻	3	9	—	27	博士 （学術、理学又は工学）	0. 44	平成18年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	情報科学専攻	3	13	—	37	博士 （学術、理学、工学又は情報学）	1. 37	平成18年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	環境・エネルギーシステム専攻	3	7	—	21	博士 （学術、理学又は工学）	1. 71	平成18年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	バイオサイエンス専攻	3	8	—	24	博士 （学術、理学、工学又は農学）	1. 37	平成18年度	静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号
	山岳流域研究院	2	7	—	14	修士（流域学）	1. 07	令和5年度	静岡県静岡市駿河区大谷836番地
	（附属学校園） 名 称：教育学部附属幼稚園 目 的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次の各号に掲げる任務を果たすことを目的とする。 （1）教育学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。 （2）保育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと。 所 在 地：静岡県静岡市葵区大岩町1番10号 設置年月：昭和26年4月改称 規 模 等：土地 5,987㎡、建物 1,020㎡ 名 称：教育学部附属静岡小学校 目 的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次の各号に掲げる任務を果たすことを目的とする。 （1）教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。 （2）小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと。 所 在 地：静岡県静岡市葵区駿府町1番94号 設置年月：昭和26年4月改称 規 模 等：土地 14,461㎡、建物 7,120㎡ 名 称：教育学部附属浜松小学校 目 的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次の各号に掲げる任務を果たすことを目的とする。 （1）教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。 （2）小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと。 所 在 地：静岡県浜松市中央区布橋三丁目2番1号 設置年月：昭和26年4月改称 規 模 等：土地 25,027㎡、建物 5,298㎡ 名 称：教育学部附属静岡中学校 目 的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次の各号に掲げる任務を果たすことを目的とする。 （1）教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。 （2）中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。 所 在 地：静岡県静岡市葵区駿府町1番86号 設置年月：昭和26年4月改称 規 模 等：土地 17,889㎡、建物 6,474㎡								

令和7年度入学
定員増（2人）

名 称：教育学部附属浜松中学校
目 的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次の各号に掲げる任務を果すことを目的とする。
（1）教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。
（2）中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。
所 在 地：静岡県浜松市中央区布橋三丁目2番2号
設置年月：昭和26年4月改称
規 模 等：土地 25,027㎡、建物 4,581㎡

名 称：教育学部附属島田中学校
目 的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次の各号に掲げる任務を果すことを目的とする。
（1）教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること。
（2）中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。
所 在 地：静岡県島田市中河町169番地
設置年月：昭和26年4月改称
規 模 等：土地 23,214㎡、建物 5,285㎡

名 称：教育学部附属特別支援学校
目 的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次の各号に掲げる任務を有する。
（1）知的障害者教育の理論及び実際に関する研究を行い教育界の参考に供する。
（2）学生の実習及び介護等体験を指導する。
所 在 地：静岡県静岡市葵区大岩町1番15号
設置年月：昭和49年4月（平成19年4月改称）
規 模 等：土地 22,314㎡、建物 3,732㎡

（農場、演習林）

名 称：農学部附属地域フィールド科学教育研究センター
目 的：持続型農林業の確立及び森林・水圏環境の保全についてのフィールド科学に関する教育研究を行うとともに、地域社会の発展及び国際社会に貢献することを目的とする。
所 在 地：（持続型農業生態系部門藤枝フィールド）
静岡県藤枝市仮宿63番地
（森林生態系部門天竜フィールド（上阿多古））
静岡県浜松市天竜区西藤平1623の1
（森林生態系部門南アルプスフィールド（中川根））
静岡県榛原郡川根本町元藤川298の7
（水圏生態系部門用宗フィールド）
静岡県静岡市駿河区用宗2丁目28
設置年月：平成14年4月
規 模 等：（持続型農業生態系部門藤枝フィールド）
土地 120,482㎡、建物 3,903㎡
（森林生態系部門天竜フィールド（上阿多古））
土地 608,776㎡、建物 638㎡
（森林生態系部門南アルプスフィールド（中川根））
土地 2,592,890㎡、建物 307㎡
（水圏生態系部門用宗フィールド）
土地 3,346㎡、建物 380㎡

（その他）

名 称：教育学部附属教育実践支援センター
目 的：教育関連諸機関と連携し、地域の学校支援、現職教員の研修、教育研究の発信及び学生の教職支援等に資することを目的とする。
所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地
設置年月：令和6年4月
規 模 等：建物 530㎡

名 称：理学部附属放射科学教育研究推進センター
目 的：放射科学の基礎及びその応用に関する教育研究を行う。
所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地
設置年月：平成29年2月改称
規 模 等：建物 724㎡

附属施設の概要	名称：工学部次世代ものづくり人材育成センター 目的：独創性に富んだ科学技術を創造する人材養成のための教育、創造的な基盤研究・研究開発、社会に開かれた「知」の拠点とした社会地域連携を行うことを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成22年4月 規模等：建物 2,886㎡
	名称：電子工学研究所 目的：電子工学に関する学理及びその応用の研究を行うこと並びに大学の教員その他の者で研究所の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させることを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：昭和40年4月 規模等：建物 6,900㎡
	名称：グリーン科学技術研究所 目的：グリーン科学に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成25年4月 規模等：建物 大谷総合研究棟（5,658㎡）及び城北総合研究棟（9,408㎡）の一部を使用
	名称：大学教育センター 目的：教養教育と学部専門教育の有機的連携を図り、授業内容・方法及び教育組織に対する不断の点検・改善を行うこと並びに教養教育を効果的かつ円滑に実施することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
	名称：学生支援センター 目的：全学的立場からキャリアサポート、学生相談、学生生活支援及び障がい学生支援の企画・実施を行い、もって静岡大学の学生支援活動の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成22年12月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）、共通教育D棟（1,655㎡）、附属図書館分館・学生支援棟（4,663㎡）及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用
	名称：全学入試センター 目的：静岡大学の入学者選抜に関する企画、広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、静岡大学における円滑な入学者選抜の実施に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用
	名称：情報基盤センター 目的：静岡大学の情報戦略に基づき、全学情報基盤システムの研究開発及び運用支援を一元的に行うことを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成21年4月 規模等：建物 共通教育L棟（5,012㎡）、創造科学技術大学院棟（2,412㎡）、工学部5号館（8,332㎡）及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用
	名称：防災総合センター 目的：静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開させるとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：平成20年4月 規模等：建物 大学会館（2,452㎡）の一部を使用

	名 称：浜松共同利用機器センター 目 的：静岡大学の学内共同教育研究施設として、各種大型評価・分析機器等を利用する教育、研究及び企業等からの試験委託の用に供するとともに、関連技術の研究・開発等を行い、もって本学の教育研究の進展及び産学連携活動の推進に資することを目的とする。 所 在 地：静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成22年4月（令和5年4月改称） 規 模 等：建物 城北総合研究棟（9,408㎡）の一部を使用
	名 称：教職センター 目 的：静岡大学における教員養成等カリキュラムの管理・運営体制の整備を行い、組織的指導体制を確立することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：平成27年4月 規 模 等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
	名 称：地域創造教育センター 目 的：静岡大学において地域社会との教育連携の中核的役割を担い、地域志向を持った人材を育成するとともに、教育研究を通じて地域社会が抱える課題解決に寄与することにより、地域社会の発展に貢献することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：平成29年10月 規 模 等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
	名 称：サステナビリティセンター 目 的：地域社会や国際社会におけるステークホルダーと共に、学際的な教育研究をはじめとした多様な取組を推進することにより、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：令和2年4月 規 模 等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
	名 称：静岡共同利用機器センター 目 的：静岡大学の学内共同教育研究施設として、研究設備・機器等を教育、研究及び学外からの試験委託の用に供するとともに、機器による分析、測定及び解析に関する業務並びにその他機器の利用に伴う必要な業務を行い、もって静岡大学の教育研究の進展及び産学連携活動の推進に資することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：令和5年4月 規 模 等：建物 大谷総合研究棟（5,658㎡）の一部を使用
	名 称：イノベーション社会連携推進機構 目 的：静岡大学における産学連携と地域連携に関わる戦略を全学的、かつ、一体的な観点から確立し、静岡大学の教育研究成果を社会に積極的に還元し社会連携を推進することにより、地域等及び静岡大学の発展に資することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成24年4月 規 模 等：建物 イノベーション社会連携推進機構（2,696㎡）及び本部管理棟別館（412㎡）の一部を使用
	名 称：情報基盤機構 目 的：静岡大学における教育・研究活動、学生生活及び管理業務を支援する全学情報基盤システムに関し戦略的に企画、立案し、推進することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成21年4月 規 模 等：建物 共通教育L棟（5,012㎡）の一部及び創造科学技術大学院棟（2,412㎡）の一部を使用
	名 称：全学教育基盤機構 目 的：静岡大学における教育、学生支援及び入学者選抜に関する基本方針及び主要施策その他教育等に関する事項について、全学的な観点から検討し、その結果に基づき、本学の教育、学生支援及び入学者選抜の質の向上及び一層の推進を図ることを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：平成27年4月 規 模 等：－

	名 称：国際連携推進機構 目 的：静岡大学における国際連携に関わる戦略を全学的な観点から検討し、静岡大学の理念及び基本方針に沿った総合的かつ効果的な国際連携の一層の推進を図ることを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県浜松市中央区城北三丁目5番1号 設置年月：平成29年10月 規 模 等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用 名 称：未来社会デザイン機構 目 的：静岡大学における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、地域に住む人々のウェルビーイング及び持続可能な社会構築並びに分野横断的な教育研究の発展を、新たな社会的価値の創造及び未来社会のデザインに基づき、大学の有する学術的資産の集約的投資及び産官学民の共創により実現することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地、静岡県伊豆市青羽根65番1号 設置年月：令和2年4月 規 模 等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部及び東部サテライトの一部を使用 名 称：研究戦略機構 目 的：静岡大学における研究戦略を総合的に企画・立案するとともに、静岡大学の強み・特色を伸ばす全学研究マネジメント計画を遂行し、研究力の強化に資することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：令和7年4月 規 模 等：建物 本部管理棟別館（412㎡）の一部を使用 名 称：マリンインフォマティクス研究機構 目 的：海洋に関する多様な社会課題をデータ分析により解決するマリンインフォマティクスの研究強化のため、静岡大学及び静岡理工科大学の強みを統合し、それぞれの大学が有する資源を有効に活用し、情報・機械・生物・産業社会等の横断的な研究連携体制を構築するとともに駿河湾を対象とした海洋データ及びシミュレーションモデルなどの基盤システム開発を推進することを目的とする。 所 在 地：静岡県静岡市駿河区大谷836番地 設置年月：令和7年4月 規 模 等：－	
--	--	--

- （注）
- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設研究科等の目的」，「新設研究科等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 2 「既設分」については，共同教育課程に係る数を除いたものとする。
 - 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，及び「図書・設備」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
 - 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人静岡大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
静岡大学			
人文社会科学部			
社会学科	60	-	240
言語文化学科	69	-	276
法学科	84	3年次 2	340
法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126
経済学科	142	-	568
経済学科（夜間主コース）	30	-	120
教育学部			
学校教育教員養成課程	260	-	1,040
情報学部			
情報科学科	98	-	392
行動情報学科	69	-	276
情報社会学科	68	-	272
理学部			
数学科	38	-	152
物理学科	48	-	192
化学科	48	-	192
生物科学科	48	-	192
地球科学科	48	-	192
工学部			
機械工学科	160	-	640
電気電子工学科	110	-	440
電子物質科学科	110	-	440
化学バイオ工学科	110	-	440
数理システム工学科	50	-	200
農学部			
生物資源科学科	105	3年次 7	434
応用生命科学科	70	3年次 3	286
グローバル共創科学部			
グローバル共創科学科	115	-	460
計			
	1,970	3年次15	7,910
静岡大学大学院			
人文社会科学研究科			
臨床人間科学専攻（M）	11	-	22
比較地域文化専攻（M）	10	-	20
経済専攻（M）	15	-	30
（うち、経済専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【1】	-	【2】 ※
教育学研究科			
共同教科開発学専攻（D）	4	-	12
教育実践高度化専攻（P）	45	-	90
総合科学技術研究科			
情報学専攻（M）	85	-	170
理学専攻（M）	70	-	140
（うち、理学専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【1】	-	【2】 ※
工学専攻（M）	322	-	644
農学専攻（M）	87	-	174
（うち、農学専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【5】	-	【10】 ※
光医工学研究科			
光医工学共同専攻（D）	5	-	15
自然科学系教育部			
ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30
光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27
情報科学専攻（D）	13	-	39
環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21
バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24
山岳流域研究院（M）	【7】	-	【14】 ※
計			
	701		1,458
※山岳流域研究院（M）の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科 経済専攻（M）、総合科学技術研究科理学専攻（M）及び総合科学技術 研究科農学専攻（M）の内数とする。			

令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
静岡大学				
人文社会科学部				
社会学科	60	-	240	
言語文化学科	69	-	276	
法学科	84	3年次 2	340	
法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126	
経済学科	142	-	568	
経済学科（夜間主コース）	30	-	120	
教育学部				
学校教育教員養成課程	260	-	1,040	
情報学部				
情報科学科	98	-	392	
行動情報学科	69	-	276	
情報社会学科	68	-	272	
理学部				
数学科	38	-	152	
物理学科	48	-	192	
化学科	48	-	192	
生物科学科	48	-	192	
地球科学科	48	-	192	
工学部				
機械工学科	160	-	640	
電気電子工学科	110	-	440	
電子物質科学科	110	-	440	
化学バイオ工学科	110	-	440	
数理システム工学科	50	-	200	
農学部				
生物資源科学科	105	3年次 7	434	
応用生命科学科	70	3年次 3	286	
グローバル共創科学部				
グローバル共創科学科	115	-	460	
計				
	1,970	3年次15	7,910	
静岡大学大学院				
人文社会科学研究科				
臨床人間科学専攻（M）	11	-	22	
比較地域文化専攻（M）	10	-	20	
経済専攻（M）	16	-	32	山岳流域研究院の定員変更 に伴う定員変更（1）
（うち、経済専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【2】	-	【4】 ※	
教育学研究科				
共同教科開発学専攻（D）	4	-	12	
教育実践高度化専攻（P）	45	-	90	
総合科学技術研究科				
情報学専攻（M）	85	-	170	
理学専攻（M）	70	-	140	
（うち、理学専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【1】	-	【2】 ※	
工学専攻（M）	322	-	644	
農学専攻（M）	89	-	178	山岳流域研究院の定員変更 に伴う定員変更（2）
（うち、農学専攻から山岳流域研究院の内 数とする入学定員数及び収容定員数）	【7】	-	【14】 ※	
光医工学研究科				
光医工学共同専攻（D）	5	-	15	
自然科学系教育部				
ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30	
光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27	
情報科学専攻（D）	16	-	48	定員変更（3）
環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21	
バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24	
山岳流域研究院（M）	【10】	-	【20】 ※	定員変更（3）
グローバル共創科学研究科				
グローバル共創科学専攻（M）	12	-	24	研究科の設置（届出）
計				
	719		1,497	
※山岳流域研究院（M）の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科経済専攻（M）、 総合科学技術研究科理学専攻（M）及び総合科学技術研究科農学専攻（M）の内数とする。				

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 了 学 部 等 の 学 年 進 行 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	専任教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
人文社会科学研 究科 臨床人間科学専 攻(M)	修士 (臨床人間 科学)	社会学・社 会福祉学関 係	グローバル共創科学研 究科グローバル共創科 学専攻(M)	3	2	人文社会科学研 究科 臨床人間科学専 攻(M)	修士 (臨床人間 科学)	社会学・社 会福祉学関 係	人文社会科学研究科臨 床人間科学専攻(M)	13	8
			人文社会科学研究科臨 床人間科学専攻(M)	13	8						
			計	16	10				計	13	8
総合科学技術研 究科 情報学専攻(M)	修士 (情報学)	工学関係、 社会学・社 会福祉学関 係	総合科学技術研究科情 報学専攻(M)	62	28	総合科学技術研 究科 情報学専攻(M)	修士 (情報学)	工学関係、 社会学・社 会福祉学関 係	総合科学技術研究科情 報学専攻(M)	62	28
			その他	1	0						
			退職	7	7						
			計	70	35				計	62	28
総合科学技術研 究科 理学専攻(M)	修士 (理学)	理学関係	グローバル共創科学研 究科グローバル共創科 学専攻(M)	1	0	総合科学技術研 究科 理学専攻(M)	修士 (理学)	理学関係	総合科学技術研究科理 学専攻(M)	59	21
			総合科学技術研究科理 学専攻(M)	59	21				山岳流域研究院(兼務)	2	2
			山岳流域研究院(兼務)	2	2						
			退職	7	7						
			計	69	30				計	61	23
総合科学技術研 究科 農学専攻(M)	修士 (農学)	農学関係	グローバル共創科学研 究科グローバル共創科 学専攻(M)	5	2	総合科学技術研 究科 農学専攻(M)	修士 (農学)	農学関係	総合科学技術研究科農 学専攻(M)	60	28
			総合科学技術研究科農 学専攻(M)	60	28				山岳流域研究院(兼務)	8	3
			山岳流域研究院(兼務)	8	3						
			退職	3	3						
			計	76	36				計	68	31
山岳流域研究院 (M)	修士 (流域学)	農学関係	人文社会科学研究科経 済専攻(M)(兼務)	2	2	山岳流域研究院 (M)	修士 (流域学)	農学関係	人文社会科学研究科経 済専攻(M)(兼務)	2	2
			総合科学技術研究科理 学専攻(M)(兼務)	2	2				総合科学技術研究科理 学専攻(M)(兼務)	2	2
			総合科学技術研究科農 学専攻(M)(兼務)	8	3				総合科学技術研究科農 学専攻(M)(兼務)	8	3
			計	12	7				計	12	7
						グローバル共創 科学研究科 グローバル共創 科学専攻(M)	修士 (共創科学)	農学関係	人文社会科学研究科臨 床人間科学専攻(M)	3	2
									総合科学技術研究科理 学専攻(M)	1	0
									総合科学技術研究科農 学専攻(M)	5	2
									グローバル共創科学部	8	3
									未来創成本部	4	0
									計	21	7

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
昭和45年4月	農学研究科農学専攻 設置	農学	設置認可(研究科)
	農学研究科林産学専攻 設置	農学	
	農学研究科農芸化学専攻 設置	農学	
昭和46年4月	農学研究科園芸学専攻 設置	農学	設置届出(専攻)
	農学研究科林学専攻 設置	農学	
平成5年4月	農学研究科生物生産科学専攻 設置 (5専攻を3専攻に改組)	農学	設置届出(専攻)
	農学研究科森林資源科学専攻 設置 (5専攻を3専攻に改組)	農学	
	農学研究科応用生物化学専攻 設置 (5専攻を3専攻に改組)	農学	
平成9年4月	人文社会科学研究科比較地域文化専攻 設置	文学	設置認可(研究科)
	人文社会科学研究科法律経済専攻 設置	法学・経済学	
平成12年4月	農学研究科人間環境科学専攻 設置	農学	設置届出(専攻)
平成15年4月	人文社会科学研究科臨床人間科学専攻 設置	社会学・社会福祉学	設置認可(専攻)
平成17年4月	人文社会科学研究科経済専攻 設置 (人文社会科学研究科法律経済専攻 → 人文社会科学研究科経済専攻及び法務研究科に改組)	経済学	設置届出(専攻)
平成20年4月	農学研究科共生バイオサイエンス専攻 設置 (人間環境科学専攻及び生物生産科学専攻から改組)	農学	設置届出(専攻)
	農学研究科環境森林科学専攻専攻 設置 (森林資源科学専攻から改組)	農学	
平成27年4月	総合科学技術研究科情報学専攻 設置	工学、社会学・社会福祉学	設置届出(研究科)
	総合科学技術研究科理学専攻 設置	理学	
	総合科学技術研究科工学専攻 設置	工学	
	総合科学技術研究科農学専攻 設置 (農学研究科から改組)	農学	
令和5年4月	山岳流域研究院 設置	農学	設置届出(研究科等連係課程実施基本組織)
令和9年4月	グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻 設置	農学	設置届出(研究科)

- 基本計画書 - 13 -

教 育 課 程 等 の 概 要																
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員(助手を除く)以外の教員	
共創科学専門科目	自然環境創造領域	グローバル共創科学特別実験Ⅰ	1通			1				○	2	3		3		オムニバス オムニバス オムニバス
		グローバル共創科学特別実験Ⅱ	2通			1				○	2	3		3		
		環境生物化学特論	1・2前			1		○			1			1		
		環境生物化学演習	1・2前			1			○		1			1		
		天然物化学特論	1・2後			1		○			1					
		天然物化学演習	1・2後			1			○		1					
		生命科学特論	1・2前			1		○						1		
		植物・藻類生理学演習	1・2前			1			○					1		
		天体物理学特論	1・2後			1		○				1				
		天体物理学演習	1・2後			1			○			1				
		材料科学特論	1・2前			1		○				1				
		材料科学演習	1・2前			1			○			1				
		環境エネルギー工学特論	1・2後			1		○						1		
		環境エネルギー工学演習	1・2後			1			○					1		
		物質創成化学特論	1・2後			1		○				1				
		物質創成化学演習	1・2後			1			○			1				
	小計（16科目）	—	—	0	16	0	—			2	3	0	3		1	
目総合知創出科	共創コロキウムⅠ	1前		1				○		7	8	2	3		集中・共同 集中・共同 ※研究室による ※研究室による	
	共創コロキウムⅡ	2後		1				○		7	8	2	3			
	グローバル共創科学特別研究Ⅰ	1通		4				○	※	7	8	2	3			
	グローバル共創科学特別研究Ⅱ	2通		4				○	※	7	8	2	3			
		小計（4科目）	—	—	10	0	0	—			7	8	2	3		
合計（52科目）		—	—	15	45	0	—			7	8	2	4		9	
学位又は称号		修士（共創科学）			学位又は学科の分野				農学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
2年以上在学し、必修科目15単位、選択科目15単位（うち、共創科学専門科目から8単位以上）の計30単位以上を修得すること。修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者に対して在学期間の短縮を認めることがある。なお、共創科学専門科目8単位のうち、自領域から6単位、他領域から2単位を選択必修科目とする。また、他研究科科目を選択科目として修了単位に含めることができるものとする。									1 学年の学期区分						2期	
									1 学期の授業期間						15週	
									1 時限の授業の標準時間						90分	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(グローバル共創科学部グローバル共創科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養科目	新入生セミナー	1前	○	2				○		14	8	3				共同
	数理・データサイエンス入門	1前・後	○	1				○							兼3	オムニバス
	情報処理・データサイエンス演習	1前	○	2				○			1				兼1	共同
	英語コミュニケーション	1前	○	2				○			1				兼18	共同
	英語演習	2後	○	1				○							兼8	共同
	基礎英語A	1前			1			○							兼8	共同
	基礎英語B	1後			1			○							兼7	共同
	基礎英語C	2前			1			○							兼5	共同
	中級英語A	1前			2			○							兼4	共同
	中級英語B	1後			2			○							兼4	共同
	中級英語C	2前			2			○							兼4	共同
	中級英語D	2後			2			○							兼2	共同
	上級英語A	1前			2			○							兼3	共同
	上級英語B	1後			2			○							兼4	共同
	上級英語C	2前			2			○							兼4	共同
	上級英語D	2後			2			○							兼2	共同
	英語インテンシブA	1前			2			○			1					隔年・集中
	英語インテンシブB	1後			2			○							兼1	隔年・集中・共同
	英語インテンシブC	1前			2			○			1					隔年・集中
	英語インテンシブD	1後			2			○							兼1	隔年・集中
	総合英語ⅠA	1後			2			○							兼4	共同
	総合英語ⅠB	2前			2			○							兼2	共同
	総合英語ⅠC	2後			2			○							兼2	
	総合英語ⅡA	1後			2			○							兼2	共同
	総合英語ⅡB	2前			2			○			1				兼2	共同
	総合英語ⅡC	2後			2			○			1				兼2	共同
	総合英語Ⅲ	3前			2			○							兼1	
	E S PⅠ（留学）	1前			2			○			1					共同
	E S PⅡ（地域）	1後			2			○			1					
	アカデミックイングリッシュ	2後			2			○		1						
	ビジネスイングリッシュ	3後			2			○			1					
	英語海外研修A	1前			2			○							兼2	共同
	英語海外研修B	1前			2			○			1				兼2	共同
	スポーツⅠ	2前			1				○	2	2				兼6	共同
	スポーツⅡ	2後			1				○	2	2				兼5	共同
	健康体育実技Ⅰ	1前			1				○	2	2				兼10	共同
	健康体育実技Ⅱ	1後			1				○	2	2				兼10	共同
	健康体育演習	1前			1			○		2	2				兼10	共同
	キャリアデザイン	1前	○	1			○			1					兼3	オムニバス 共同（一部）
	小計(39科目)	－		9	58	0	－			14	8	3	0	0	兼70	
教養 展開 科目	哲学	2前			2		○			1					兼1	
	歴史と文化	2前			2		○								兼2	共同
	ことばと表現	2前・後			2		○								兼3	
	日本国憲法	2前・後			2		○			2					兼3	共同
	法と社会	2前			2		○			3					兼1	オムニバス 共同
	経済と社会	2前・後			2		○								兼3	共同
	国際社会と日本	2後			2		○								兼1	共同
	現代の社会	2後			2		○					1			兼12	オムニバス 共同

教養科目	教養展開科目	心理学	2前・後			2		○			1					兼6	共同
		地域と文化	2前・後			2		○			1		1			兼2	
		芸術論	2前			2		○								兼5	共同 オムニバス
		世界のことばと文化	1後			2		○								兼5	
		数学の世界	2後			2		○								兼1	共同
		数理の構造	2前・後			2		○								兼2	
		物理の世界	2前			2		○								兼1	共同
		自然と物理	2前・後			2		○								兼2	
		化学の世界	2前			2		○			2	1				兼2	共同 オムニバス
		生活の科学	2前			2		○								兼2	
		生命科学	2前・後			2		○								兼6	オムニバス
		生物と環境	2前・後			2		○			1	1				兼4	
		地球科学	2前・後			2		○								兼4	オムニバス
		進化と地球環境	2前			2		○								兼3	
		科学と技術	2前			2		○				1				兼8	オムニバス 共同
	小計(23科目)		—		0	46	0	—			8	2	2	0	0	兼73	
	留学生科目	日本語Ⅰ	1前			2		○								兼1	共同
		日本語Ⅱ	1前			2		○								兼1	
		日本語Ⅲ	1後			2		○								兼1	
		日本語Ⅳ	1後			2		○								兼1	
		日本語Ⅴ	2前			2		○								兼1	
		日本語Ⅵ	2後			2		○								兼1	
		日本事情	2後			2	○									兼1	集中
		ABPインターンシップ	1前～3後			2			○							兼1	
	小計(8科目)		—		0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
学部共通科目	グローバル系科目	Oral CommunicationⅠ	1後	○	2			○								兼3	共同
		Oral CommunicationⅡ	2前	○	2			○								兼3	共同
		Reading & DiscussionⅠ	2後	○	2			○		1						兼4	共同
		Reading & DiscussionⅡ	3前	○	2			○		1						兼4	共同
		English Writing	3後			2		○		1						兼1	共同
		English Presentation	3後			2		○		1						兼1	共同
		English Global Studies	3後			2		○		1						兼2	共同
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習	1後	○	2			○				2				兼2	共同
		海外研修プログラムⅠ	1・2前・後			2			○		1					兼2	共同 集中
		海外研修プログラムⅡ	3前・後			2			○		1					兼2	共同 集中
		コラボラティブ・ワークスⅠ	2前			1			○	9	6	3				兼8	共同
		コラボラティブ・ワークスⅡ	2後			1			○	9	6	3				兼8	共同
		コラボラティブ・ワークスⅢ	3前			1			○	9	5	3				兼9	共同
		コラボラティブ・ワークスⅣ	3後			1			○	9	5	3				兼9	共同
		コミュニティサービスラーニング	2後			1			○							兼1	集中 オムニバス 共同（一部）
		ファシリテーション概論	1後			1	○									兼1	
		アートラボ	2後			1		○				1				兼1	
	小計(17科目)		—		10	17	0	—		10	6	3	0	0		兼14	
学部共通科目	データサイエンス系科目	基礎数学	1前	○	2			○			1	1					共同
		データサイエンス基礎	1後	○	1			○		1							
		データサイエンス演習	1後	○	1				○	1							
		データエンジニアリング基礎	2前	○	2			○		1							
		AI基礎	2後	○	1			○			1						
		プログラミング演習Ⅰ	2後	○	1				○							兼1	
		AI演習	3前			1			○							兼1	オムニバス
		プログラミング演習Ⅱ	3前			1			○							兼2	
		共創科学調査法	2前	○	2			○				1				兼1	
		共創科学実験法（人間科学）	2後			1		○		1	1					兼2	
		共創科学実験法（自然科学）	2後			1		○			1						オムニバス 共同 オムニバス
	小計(11科目)		—		10	4	0	—		2	3	1	0	0		兼5	
	共創科学系科目	総合人間科学概論	1前	○	2			○		5							オムニバス
		バイオエコノミー概論	1前	○	2			○		3	2	1				兼7	オムニバス 共同（一部）
		国際地域社会とダイバーシティ	1前	○	2			○		5		2				兼2	オムニバス
		コミュニティ基礎論	1前	○	2			○		1	3	1				兼2	オムニバス
		アートシンキング・デザインシンキング	1前	○	2			○				1				兼1	オムニバス
	小計(5科目)		—		10	0	0	—		10	4	3	0	0		兼11	

人文・社会科学系科目	国際地域共生概論A（静岡・日本）	1後	○	2			○			3	2	1			兼1	オムニバス
	人間の尊厳と人権	1後	○	2			○			3						オムニバス 共同（一部）
	現代社会の認知科学	1後	○	2			○			2					兼1	オムニバス
	応用倫理学概論	2前			2		○			1						
	マネジメント論	2後			1		○								兼1	
	国際地域共生概論B（アジア・オセアニア）	2前			2		○			1		1				オムニバス
	政治と社会	2後			1		○								兼1	
	多文化共生論	2後			2		○								兼1	
	地球環境問題と法	2後			2		○			1						
	臨床心理学概論	2後			2		○			1						
	スポーツ文化論	2前			2		○				2					オムニバス 共同（一部）
	国際地域共生概論C（欧米）	2後			2		○								兼2	オムニバス
	安全とリスクの心理学	2後			2		○								兼3	オムニバス
	現代マーケティング論	2前			1		○								兼1	
	アート・デザインコミュニケーション	2前			2		○					1			兼1	オムニバス
	小計(15科目)	—		6	21	0	—			7	3	2	0	0	兼10	
自然科学系科目	暮らしの科学	1後	○	2			○				1				兼1	オムニバス 共同（一部）
	スポーツ・健康科学	1後	○	2			○			2						オムニバス 共同（一部）
	人体の構造と機能	2前			2		○			1						
	カーボンニュートラル科学	2後			2		○			2	1				兼2	オムニバス
	防災・減災論	2後			2		○			1					兼1	オムニバス 共同（一部）
	生物多様性保全論	2後			2		○				1				兼1	オムニバス
	遺伝資源・知的所有権論	2後			2		○								兼2	オムニバス
	都市計画論	2後			2		○				1					
	基礎生物学	2前			2		○				1					
	基礎化学	2前			2		○			1						
	基礎物理学	2前			2		○		※						兼1	実験・共同
	基礎地学	2前			2		○								兼1	
	小計(12科目)	—		4	20	0	—			6	4	0	0	0	兼8	
コース専門科目	国際地域共生学研究Ⅰ	3前			2			○		3	2	3				共同
	国際地域共生学研究Ⅱ	3後			2			○		3	2	3				共同
	国際地域共生学演習Ⅰ	4前			2			○		3	2	3				共同
	国際地域共生学演習Ⅱ	4後			2			○		3	2	3				共同
	グローバル協力論	3後			2		○			1					兼1	
	国際移動論	3前			2		○								兼1	
	エスニシティ論	3後			2		○					1				
	観光振興論	3後			2		○								兼5	共同
	比較文化から見る法	3前			1		○			1						
	国際・地域の安全と法	3後			1		○			2						オムニバス 共同（一部）
	社会的排除とソーシャルインクルージョン	3後			2		○								兼1	隔年
	国際地域ケーススタディ	3後			1			○		3	1	3			兼5	共同
	国際福祉社会論	3後			2		○					1				
	住居計画	3前			2		○				1					
	防災まちづくり	3前			2		○			1						
	ジェンダー・セクシュアリティスタディーズ	3前			1			○							兼1	
	表象・メディア・文化	3後			2		○								兼1	
	視覚芸術論	3後			2		○					1				
	芸術と教育	3前			2		○								兼1	
	ミュージアム・スタディーズ	3前			2		○					1				
	小計(20科目)	—		0	36	0	—			5	2	3	0	0	兼16	
生命圏循環共生学コース専門科目	生命圏循環共生学研究Ⅰ	3前			2			○		5	4					共同
	生命圏循環共生学研究Ⅱ	3後			2			○		5	4					共同
	生命圏循環共生学演習Ⅰ	4前			2			○		5	4					共同
	生命圏循環共生学演習Ⅱ	4後			2			○		5	4					共同
	環境再生科学	3前			2		○			1						
	安全管理	3後			2		○								兼2	
	資源循環化学	3前			2		○				1					
	材料科学	3後			2		○				2				兼1	オムニバス
	環境共生社会論	3後			2		○								兼1	
	自然災害の現象	3後			2		○								兼1	
	森林水文学	3前			2		○								兼2	オムニバス
	環境と経済	3前			2		○			1						
	遺伝と進化	3前			2		○			1						
	分析化学	3前			2		○			1						
	農村・森林の環境と法	3前			2		○			1						
	環境工学	3前			2		○								兼1	
	バイオテクノロジー	3前			2		○								兼1	
	技術者倫理	3前			1		○								兼2	
	環境微生物学	3後			2		○								兼1	オムニバス

総合人間科学コース専門科目	小計(19科目)			—		0	37	0	—			5	4	0	0	0	兼10	
	総合人間科学研究Ⅰ	3前			2			○			7	2					兼1	共同 共同 共同 共同
	総合人間科学研究Ⅱ	3後			2			○			7	2						
	総合人間科学演習Ⅰ	4前			2			○			7	2						
	総合人間科学演習Ⅱ	4後			2			○			7	2						
	発達心理学	3前			2		○											
	知覚・認知心理学	3前			1		○				1						兼1 兼1 兼1 兼1	
	デザイン心理学	3前			1		○			1								
	社会・集団・家族心理学	3後			2		○											
	身体・認知情報システム論	3後			2			○										
	情報通信技術論	3前			1		○											
	情報通信技術演習	3前			1			○										
	健康・医療心理学	3後			1		○				1							
コース専門科目	総合人間科学コース専門科目	コミュニケーション心理学	3後		1		○				1						兼1	オムニバス 共同（一部） オムニバス 共同（一部）
	運動生理学	3前		2		○				1								
	身体機能のメカニズムと計測	3後		2			○				1							
	スポーツ経営学	3前		2		○					1							
	スポーツ心理学	3後		2		○												
	コーチング学	3前		2		○					1							
	スポーツの理論と実践Ⅰ	3前		1				○		2	2							
	スポーツの理論と実践Ⅱ	3後		1				○		2	2							
	人間科学の課題と法	3後		1		○				1								
	人間行動科学と刑事政策	3後		1		○				1								
	ウェルビーイングの哲学	3前		1		○				1								
	生命・医療倫理学	3前		1		○				1								
	小計(24科目)			—		0	36	0	—			7	2	0	0	0	兼5	
学部共通科目	卒業研究	グローバル共創科学卒業研究	4通	○	6				○		15	8	3				共同	
	小計(1科目)			—		6	0	0	—			15	8	3	0	0		兼0
	合計(194科目)			—		55	291	0	—			15	8	3	0	0	兼177	—
学位又は称号		学士（学術）				学位又は学科の分野				文学関係、法学関係、社会学・社会福祉学関係、農学関係								
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
必修科目55単位、選択科目69単位（うち教養科目から11単位以上、グローバル系科目から6単位以上、データサイエンス系科目から2単位以上、人文・社会科学系科目から8単位以上、自然科学系科目から8単位以上、コース専門科目から26単位以上）の計124単位以上を修得すること。なお、教養科目の選択科目11単位のうち、教養展開科目から4単位、また、コース専門科目の選択科目26単位のうち、3年時から選択するコースに応じた研究Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱの4科目計8単位を選択必修とする。										1 学年の学期区分				2 学期				
										1 学期の授業期間				15週				
										1 時限の授業時間				90分				

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文社会科学研究科臨床人間科学専攻）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員	
研究科共通科目	海外実習Ⅰ	1・2通			1				○	1						共同
	海外実習Ⅱ	1・2通			1				○	1						
	スクールインターンシップ	1・2通			4				○						2	
	大学院インターンシップ	1・2前			2				○	1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	2	
専攻必修科目	臨床人間科学	1前		2			○			5		3			2	オムニバス
	対人援助の倫理と法	1後		2			○			4	1	2			1	オムニバス
	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—			8	1	3	0	0	3	
	臨床人間科学特別演習Ⅰ	1前		2				○		8	1	3				共同
	臨床人間科学特別演習Ⅱ	1後		2				○		8	1	3				共同
専攻選択科目	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—			8	1	3	0	0	0	
	臨床心理学研究法Ⅰ	1前			2		○			4	1	2				共同
	臨床心理学研究法Ⅱ	1後			2		○			4	1	2				共同
	臨床人間学研究法Ⅰ	1前			2		○			1						共同
	臨床人間学研究法Ⅱ	1後			2		○			1						共同
	臨床社会学研究法Ⅰ	1前			2		○			3		1				共同
	臨床社会学研究法Ⅱ	1後			2		○			3		1				共同
	臨床身体運動学研究法Ⅰ	1前			2		○								4	共同
	臨床身体運動学研究法Ⅱ	1後			2		○								4	共同
	小計（8科目）	—	—	0	16	0	—			8	1	3	0	0	4	
	質的調査演習	1後			2			○		1						共同
	質的分析演習	2前			2			○		1						
	量的調査演習	1・2後			2			○		1						
	計量分析演習	1・2後			2			○		1						
	実験研究法演習	1・2前			2			○							1	
	運動生理測定法演習	1・2後			2			○							1	
	臨床人間科学学外実習Ⅰ	1・2前			1				○		1					
	臨床人間科学学外実習Ⅱ	1・2通			1				○						1	
	多文化共生実習Ⅰ	1・2通			1				○	4	1	2				共同
	多文化共生実習Ⅱ	1・2通			1				○	4	1	2				共同
	小計（10科目）	—	—	0	16	0	—			7	1	2	0	0	1	
臨床心理学コース	臨床心理学特論Ⅰ	1前			2		○				1					共同
	臨床心理学特論Ⅱ（臨床心理学論）	1後			2		○			1						
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前			2		○			1		1				
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後			2		○			1		1				
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1前			2			○		1						
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後			2			○		1						隔年
	コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2前			1		○			1						
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2前			1		○			1						
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1前			1				○	3	1	2			1	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1後			1				○	3	1	2				
	臨床心理学外実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	1通			4				○	3	1	2				
	臨床心理学外実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ）	2前			2				○	3	1	2			3	
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ）	2通			4				○	3	1	2			1	
	臨床心理実習Ⅱ	2通			1				○	3	1	2				
	臨床心理学講読演習Ⅰ	1前			2			○		1						
	臨床心理学講読演習Ⅱ	1後			2			○		1						
	発達心理学特論	1・2前			2		○								1	
	認知心理学特論	1・2前			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学研究科臨床人間科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
専攻 選択科目	臨床心理学コース	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1前		2		○								1	集中
		精神保健福祉特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2前		2		○			1						隔年
		心理療法特論	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		家族心理臨床特論	1・2前		1		○					1				隔年
		認知行動的アプローチ特論	1・2前		1		○					1				隔年
		教育分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		グループ・アプローチ演習Ⅰ	1・2前		2			○			1					集中/隔年
		グループ・アプローチ演習Ⅱ	1・2前		2			○			1					集中/隔年
	小計 (28科目)	—	—	0	49	0	—	—	—	3	1	2	0	0	11	
臨床 人間 科学 コース		ヒューマン・ケアと医療の倫理学	1・2後		2		○			1						
		臨床倫理学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						隔年
		臨床倫理学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						隔年
		臨床社会心理学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						隔年
		臨床社会心理学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						隔年
		障害学特論	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		対人支援の社会学	1・2前		1		○								1	集中/隔年
		自己と社会変動論	1・2後		2					1						隔年
		教育臨床の社会学	1・2後		2		○			1						隔年
		社会的不平等論演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						隔年
		社会的不平等論演習Ⅱ	1・2前		2			○		1						隔年
		家族とジェンダーの社会学	1・2前		2					1						隔年
		リプロダクションの社会学	1・2前		2		○			1						隔年
		地域と環境の社会学	1・2前		2		○					1				
		地域デザイン演習Ⅰ	1・2後		2			○				1				隔年
		地域デザイン演習Ⅱ	1・2後		2			○				1				隔年
		スポーツプロモーション特論	1・2前		2		○								2	共同
		健康スポーツ社会学演習Ⅰ	1・2後		2			○							1	隔年
		健康スポーツ社会学演習Ⅱ	1・2後		2			○							1	隔年
		スポーツ健康科学特論	1・2前		2		○								1	
		健康運動科学演習Ⅰ	1・2後		2			○							1	隔年
		健康運動科学演習Ⅱ	1・2後		2			○							1	隔年
	小計 (22科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	5	0	1	0	0	4	
合計 (76科目)		—	—	8	131	0	—	—	—	8	1	3	0	0	18	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文社会科学研究科臨床人間科学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
学位又は称号		修士（臨床人間科学）			学位又は学科の分野					社会学・社会福祉学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
研究科に2年以上在学し、修了に必要な授業科目30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優秀な業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。修士論文作成又は特定の課題遂行の指導を受ける「特別演習」は必修科目で、それらに向けた研究法指導の導入科目として「研究法」を選択必修科目に設定してある。修了に必要な授業科目30単位以上の履修方法の内訳は以下のとおり。 本専攻の必修科目である総合講義の「臨床人間科学（2単位）」と「対人援助の倫理と法（2単位）」を修得し、修士論文の作成に必要な指導教員の指導に基づく「臨床人間科学特別演習Ⅰ（2単位）」と「臨床人間科学特別演習Ⅱ（2単位）」を修得する。選択必修科目については、「臨床心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床人間学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「臨床社会学研究法Ⅰ・Ⅱ」「臨床身体運動学研究法Ⅰ・Ⅱ」（それぞれ各2単位、合計4単位）のいずれかの研究法の修得とこれらの研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習を6単位修得する。 これらの必修科目8単位（総合講義4単位、特別演習4単位）、選択必修科目10単位（研究法4単位、研究法を除く専攻内の講義又は演習・実習6単位）を修得し、残りの12単位については選択科目として区分され、本専攻及び他の専攻内で開講する科目を修得する。ただし、研究科長が教育上有益と認めるときは、他の研究科及び他の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目を履修することができ、修得した単位は10単位を超えない範囲で課程修了の要件となる単位として認めることができる。 なお、臨床心理学コースの開講科目は、公認心理師や臨床心理士の資格を取得するために開講されており、（厚生労働省への事前の届出による）公認心理師法に基づく科目や、（財）日本臨床心理士資格認定協会への事前の届出による）当該協会指定科目が開講されており、一部の授業科目はコース限定の履修科目としている。									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
研究科 共通科目	現代経営論	1・2後			2		○								2	集中
	希少資源戦略論	1・2前			2		○								1	
	先端機器分析科学Ⅰ	1・2前			2		○								1	
	先端機器分析科学Ⅱ	1・2後			2		○			2	1				8	オムニバス
	フロンティア科学特論	1・2前			1		○								7	集中
	現代科学の最前線Ⅰ	1・2前			1		○								7	オムニバス
	現代科学の最前線Ⅱ	1・2後			1		○								7	オムニバス
	科学技術政策特論	1・2前			2		○								1	
	マーケティング論	1・2後			2		○								2	集中
	情報システム論	1・2前			2		○								1	
	情報セキュリティマネジメント論	1・2後			2		○								2	
	応用数学概論	1・2前			2		○								1	
	応用数学特論	1・2前			2		○								1	
	量子工学特論	1・2前			2		○								1	
	工学基礎化学特論Ⅰ	1・2前			2		○								1	
	工学基礎化学特論Ⅱ	1・2後			2		○								1	
	応用生命科学概論	1・2前			2		○								1	
	応用プログラミング	1・2前			2			○							1	集中
	システム・ネットワーク論	1・2前			2		○								5	オムニバス
	コミュニケーション論	1・2後			2		○								4	オムニバス
	情報資源総論	1・2前			2		○								5	オムニバス
	情報社会セキュリティ論	1・2後			2		○								3	オムニバス
	先端フィールド科学特別演習	1・2通			1			○		1						集中
	統合オミックス特論	1・2後			2		○								1	オムニバス
	分子構造解析特論	1・2前			2		○								2	集中
	分子構造解析演習	1・2前			1			○							2	集中
	生体高分子構造解析特論	1・2前			2		○			1	1					オムニバス
	次世代シーケンサーDRY解析演習	1・2前			1			○							1	集中
	災害情報学特論	1・2前			2		○								1	
	津波工学特論	1・2後			2		○								1	
	地震災害論	1・2前			1		○								2	集中
	火山災害論	1・2後			1		○								2	集中
	Science and Technology in Japan	1・2前			2		○								1	
	Shizuoka Enterprises in South and Southeast Asia	1・2後			2		○								2	共同
	Professional Presentations in English	1・2後			1			○			1				1	集中
	English Thesis Writing	1・2後			1			○			1				1	共同
	大学院キャリアデザイン	1・2前			1		○			2	1					集中
	大学院インターンシップ	1・2通			1				○		1					共同
	スクールインターンシップ	1通			4				○						2	集中
	海外実践活動準備研修	1・2通			1			○							3	共同
	海外大学交流研修	1・2通			2				○						1	集中
	創造科学技術入門セミナーⅡ	1・2前			1		○			1					6	オムニバス
	創造科学技術先端機器分析演習Ⅱ	2後			1			○							1	集中
	産業イノベーション特論	1・2後			2		○								5	オムニバス
小計（44科目）		—	—	0	75	0	—			7	4	0	0	0	86	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
生物資源科学コース	生物資源科学特別研究	1～2通		12					○	16	15		4			共同
	小計 (1科目)	—	—	12	0	0	—			16	15	0	4	0	0	
植物バイオサイエンス教育プログラム	植物バイオサイエンス選択必修科目															
	花卉園芸学特論	1・2前			1		○			1						オムニバス オムニバス 集中
	野菜園芸学特論	1・2後			1		○			2						
	収穫後生理学特論	1・2後			1		○			1	1					
	果樹機能開発学特論	1・2前			1		○								1	オムニバス
	花卉園芸学演習	1・2後			2			○		1						
	野菜園芸学演習	1・2前			2			○		1						
	収穫後生理学演習	1・2前			2			○		1						
	青果保蔵学演習	1・2前			2			○			1					
	果樹機能開発学演習	1・2後			2			○							1	
	害虫防除学特論	1・2前			1		○				1					
	応用昆虫学特論	1・2前			1		○				1					
	植物病理学特論	1・2後			1		○				1					
	農業生態学特論	1・2後			1		○			1						
	園芸生理学特論	1・2前			1		○						1			
	進化生態学演習	1・2前			2			○					1			
	バイオインフォマティクス特論	1・2前			1		○			1						
	害虫防除学演習	1・2前			2			○			2					オムニバス
	植物病理学演習	1・2前			2			○			1					
	農業生態学演習	1・2前			2			○		1						
	園芸生理学演習	1・2前			2			○					1			集中 オムニバス 集中
	バイオインフォマティクス演習	1・2前			2			○		1						
	土壌微生物学特論	1・2前			1		○				1					
	土壌微生物学演習	1・2後			2			○			1					
	静岡学連携特別講義	1・2後			1		○			1						
	生物資源科学特別講義Ⅰ	1・2通			1		○			1					1	集中 オムニバス 集中
	生物資源科学特別講義Ⅱ	1・2通			1		○			1					1	
	生物資源科学特別演習Ⅰ	1・2通			2			○		1						
	生物資源科学特別演習Ⅱ	1・2通			1			○		1						小計 (28科目)
	小計 (28科目)	—	—	0	41	0	—			7	5	0	2	0	3	
プログラム選択科目	生命環境倫理学特論	1・2前			2		○			1						集中 集中
	Advanced Forest EcologyⅠ	1・2前			1		○			1						
	Advanced Forest EcologyⅡ	1・2前			1		○			1						集中 集中
	造林学特論Ⅰ	1・2後			1		○				1					
	造林学特論Ⅱ	1・2後			1		○				1					集中 集中
	森林生理生態学特論Ⅰ	1・2後			1		○			1						
	森林生理生態学特論Ⅱ	1・2後			1		○			1						集中 オムニバス 集中 オムニバス
	森林水文学特論Ⅰ	1・2後			1		○						1			
	森林水文学特論Ⅱ	1・2後			1		○						1			集中 オムニバス 集中 オムニバス
	森林生態学演習	1・2前			2			○			1					
	砂防工学演習	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	森林生態管理学演習	1・2後			1			○			2					
	改良木材学特論	1・2前			2		○				1					オムニバス
	木質構造学特論	1・2前			2		○				1					
	セルロースナノファイバー科学特論	1・2前			2		○			1						
	木質生化学特論	1・2後			2		○			1	1					
	高分子複合材料科学特論	1・2後			2		○			1						
	木質素材機能学特論	1・2後			2		○						1			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
生物資源科学コース	植物バイオサイエンス教育プログラム選択科目	改良木材学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		住環境構造学演習Ⅰ	1・2前		2			○			1					
		改良木材学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		木質生化学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		木質生化学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		高分子複合材料学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1			1			オムニバス
		高分子複合材料学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1			1			オムニバス
		木質素材機能学演習Ⅰ	1・2前		2			○					1			
		木質素材機能学演習Ⅱ	1・2前		2			○					1			
		住環境構造学演習Ⅱ	1・2前		2			○			1					
		持続可能型農業科学特論	1・2後		1		○				1					
		生態学特論	1・2後		1		○			1						
		持続可能型農業科学演習	1・2前		2			○			1					
		生態学演習	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		農業経営経済学特論	1・2前		1		○			1						
		住環境科学特論	1・2後		1		○				1					
		植物圏微生物学特論	1・2後		1		○				1					
		実践園芸学特論	1・2前		1		○			1						
		農業経営経済学演習	1・2前		2			○		1						
		生命環境倫理学演習	1・2後		2			○		1						
		バイオマス環境学演習	1・2前		2			○			1					
		山岳流域防災学特論	1・2後		1		○			1						
		森林・林業デジタル技術演習	1・2後		1			○			1					集中
		実践園芸学演習	1・2前		2			○		1						
		植物圏微生物学演習	1・2前		2			○			1					
		Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後		2		○			1						
		Advanced Plant Chemistry	1・2前		2		○			2	1					オムニバス
		Advanced Biological Chemistry	1・2前		2		○								1	
		Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後		2		○			1	1		1			オムニバス
		Advanced Plant ProductionⅠ	1・2後		2		○			3						オムニバス
		Advanced Plant ProductionⅡ	1・2前		2		○			3	2					オムニバス
		Advanced Environmental Conservation	1・2後		2		○			2	3					オムニバス
		Advanced Plant Protection	1・2後		2		○				4					オムニバス
		Environmental Remote Sensing A	1・2前		1		○			1						集中
		Environmental Remote Sensing B	1・2前		1		○				1					集中
		小計(53科目)	—	—	0	87	0	—	—	21	19	0	3	0	1	
木質科学教育プログラム選択必修科目	プログラム選択必修科目	改良木材学特論	1・2前		2		○				1					オムニバス
		改良木材学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		改良木材学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1	1					
		木質構造学特論	1・2前		2		○				1					
		住環境構造学演習Ⅰ	1・2前		2			○			1					
		住環境構造学演習Ⅱ	1・2前		2			○			1					
		木質生化学特論	1・2後		2		○			1	1					オムニバス
		木質生化学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		木質生化学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
		高分子複合材料学特論	1・2後		2		○			1						
		高分子複合材料学演習Ⅰ	1・2前		2			○		1			1			オムニバス
		高分子複合材料学演習Ⅱ	1・2前		2			○		1			1			オムニバス
		木質素材機能学特論	1・2後		2		○						1			
		木質素材機能学演習Ⅰ	1・2前		2			○					1			
		木質素材機能学演習Ⅱ	1・2前		2			○					1			
		小計(15科目)	—	—	0	30	0	—	—	3	3	0	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合科学技術研究科農学専攻)

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考					
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員（助手を除く）						
生物資源科学コース	木質科学教育プログラム	プログラム選択科目	花卉園芸学特論	1・2前			1			○			1										
			野菜園芸学特論	1・2後			1			○			2									オムニバス	
			収穫後生理学特論	1・2後			1			○			1	1								オムニバス	
			果樹機能開発学特論	1・2前			1			○								1				集中	
			花卉園芸学演習	1・2後			2				○		1										
			野菜園芸学演習	1・2前			2				○		1										
			収穫後生理学演習	1・2前			2				○		1										
			青果保蔵学演習	1・2前			2				○			1									
			果樹機能開発学演習	1・2後			2				○							1					
			害虫防除学特論	1・2前			1				○			1									
			応用昆虫学特論	1・2前			1				○			1									
			植物病理学特論	1・2後			1				○			1									
			農業生態学特論	1・2後			1				○			1									
			園芸生理学特論	1・2前			1				○							1					
			バイオインフォマティクス特論	1・2前			1				○			1									
			害虫防除学演習	1・2前			2					○			2								オムニバス
			植物病理学演習	1・2前			2					○			1								
			農業生態学演習	1・2前			2					○		1									
			園芸生理学演習	1・2前			2					○						1					
			進化生態学演習	1・2前			2					○						1					
			バイオインフォマティクス演習	1・2前			2					○		1									
			土壌微生物学特論	1・2前			1					○			1								
			土壌微生物学演習	1・2後			2						○		1								
			静岡学連携特別講義	1・2後			1					○			1								
			Advanced Forest Ecology I	1・2前			1					○			1								集中
			Advanced Forest Ecology II	1・2前			1					○			1								集中
			造林学特論Ⅰ	1・2後			1					○				1							オムニバス
			造林学特論Ⅱ	1・2後			1					○					1						
			森林生理生態学特論Ⅰ	1・2後			1					○			1								集中
			森林生理生態学特論Ⅱ	1・2後			1					○			1								集中
			森林水文学特論Ⅰ	1・2後			1					○						1					
			森林水文学特論Ⅱ	1・2後			1					○						1					
			森林生態学演習	1・2前			2						○			1							
			砂防工学演習	1・2前			2						○		1	1							集中
			森林生態管理学演習	1・2後			1						○			2							オムニバス
			セルロースナノファイバー科学特論	1・2前			2					○			1								
			持続可能型農業科学特論	1・2後			1					○				1							
			生態学特論	1・2後			1					○			1								
			持続可能型農業科学演習	1・2前			2						○			1							
			生態学演習	1・2前			2						○		1	1							オムニバス
住環境科学特論	1・2後			1					○				1										
バイオマス環境学演習	1・2前			2						○			1										
山岳流域防災学特論	1・2後			1					○			1											
森林・林業デジタル技術演習	1・2後			1						○			1							集中			
生命環境倫理学特論	1・2前			2					○			1											
農業経営経済学特論	1・2前			1					○			1											
実践園芸学特論	1・2前			1					○			1											
植物圏微生物学特論	1・2後			1					○				1										
農業経営経済学演習	1・2前			2						○		1											
生命環境倫理学演習	1・2後			2						○		1											
実践園芸学演習	1・2前			2						○		1											
植物圏微生物学演習	1・2前			2						○			1										
生物資源科学特別演習Ⅰ	1・2通			2						○		1											
生物資源科学特別演習Ⅱ	1・2通			1						○		1											

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
生物資源科学コース	生物資源科学特別講義Ⅰ	1・2通			1		○			1					1	集中 オムニバス
	生物資源科学特別講義Ⅱ	1・2通			1		○			1					1	集中
	Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後			2		○			1						
	Advanced Plant Chemistry	1・2前			2		○			2	1					オムニバス
	Advanced Biological Chemistry	1・2前			2		○								1	
	Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後			2		○			1	1		1			オムニバス
	Advanced Plant ProductionⅠ	1・2後			2		○			3						オムニバス
	Advanced Plant ProductionⅡ	1・2前			2		○			3	2					オムニバス
	Advanced Environmental Conservation	1・2後			2		○			2	3					オムニバス
	Advanced Plant Protection	1・2後			2		○				4					オムニバス
	Environmental Remote Sensing A	1・2前			1		○			1						集中
	Environmental Remote Sensing B	1・2前			1		○				1					集中
	小計(66科目)	—	—	0	98	0	—	—	—	20	16	0	4	0	4	
地域生態環境科学教育プログラム	Advanced Forest EcologyⅠ	1・2前			1		○			1						集中
	Advanced Forest EcologyⅡ	1・2前			1		○			1						集中
	造林学特論Ⅰ	1・2後			1		○				1					
	造林学特論Ⅱ	1・2後			1		○				1					
	森林生理生態学特論Ⅰ	1・2後			1		○			1						集中
	森林生理生態学特論Ⅱ	1・2後			1		○			1						集中
	森林水文学特論Ⅰ	1・2後			1		○						1			
	森林水文学特論Ⅱ	1・2後			1		○						1			
	森林生態学演習	1・2前			2			○			1					
	砂防工学演習	1・2前			2			○		1	1					集中 オムニバス
	森林生態管理学演習	1・2後			1			○			2					集中 オムニバス
	持続可能型農業科学特論	1・2後			1		○				1					
	生態学特論	1・2後			1		○			1						
	持続可能型農業科学演習	1・2前			2			○			1					
	生態学演習	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	住環境科学特論	1・2後			1		○				1					
	バイオマス環境学演習	1・2前			2			○			1					
	山岳流域防災学特論	1・2後			1		○			1						
	森林・林業デジタル技術演習	1・2後			1			○			1					集中
	小計(19科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	4	6	0	1	0	0	
プログラム選択科目	花卉園芸学特論	1・2前			1		○			1						
	野菜園芸学特論	1・2後			1		○			2						オムニバス
	収穫後生理学特論	1・2後			1		○			1	1					オムニバス
	果樹機能開発学特論	1・2前			1		○								1	集中
	花卉園芸学演習	1・2後			2			○		1						
	野菜園芸学演習	1・2前			2			○		1						
	収穫後生理学演習	1・2前			2			○		1						
	青果保蔵学演習	1・2前			2			○			1					
	果樹機能開発学演習	1・2後			2			○							1	
	害虫防除学特論	1・2前			1		○				1					
	応用昆虫学特論	1・2前			1		○				1					
	植物病理学特論	1・2後			1		○				1					
	農業生態学特論	1・2後			1		○			1						
	園芸生理学特論	1・2前			1		○						1			
	バイオインフォマティクス特論	1・2前			1		○			1						
	害虫防除学演習	1・2前			2			○			2					オムニバス
	植物病理学演習	1・2前			2			○			1					
	農業生態学演習	1・2前			2			○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
生物資源科学コース	地域生態環境科学教育プログラム	1・2前			2			○					1			
	園芸生理学演習	1・2前			2			○					1			
	進化生態学演習	1・2前			2			○					1			
	バイオインフォマティクス演習	1・2前			2			○		1						
	土壌微生物学特論	1・2前			1		○				1					
	土壌微生物学演習	1・2後			2			○			1					
	生命環境倫理学特論	1・2前			2		○			1						
	改良木材学特論	1・2前			2		○				1					
	木質構造学特論	1・2前			2		○				1					
	セルロースナノファイバー科学特論	1・2前			2		○			1						
	木質生化学特論	1・2後			2		○			1	1					オムニバス
	高分子複合材料学特論	1・2後			2		○			1						
	木質素材機能学特論	1・2後			2		○						1			
	改良木材学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	住環境構造学演習Ⅰ	1・2前			2			○			1					
	改良木材学演習Ⅱ	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	木質生化学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	木質生化学演習Ⅱ	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
	高分子複合材料学演習Ⅰ	1・2前			2			○		1			1			オムニバス
	高分子複合材料学演習Ⅱ	1・2前			2			○		1			1			オムニバス
	木質素材機能学演習Ⅰ	1・2前			2			○					1			
	木質素材機能学演習Ⅱ	1・2前			2			○					1			
	住環境構造学演習Ⅱ	1・2前			2			○			1					
	農業経営経済学特論	1・2前			1		○			1						
	実践園芸学特論	1・2前			1		○			1						
	植物圏微生物学特論	1・2後			1		○				1					
	農業経営経済学演習	1・2前			2			○		1						
	生命環境倫理学演習	1・2後			2			○		1						
	実践園芸学演習	1・2前			2			○		1						
	植物圏微生物学演習	1・2前			2			○			1					
	静岡学連携特別講義	1・2後			1		○			1						
	生物資源科学特別講義Ⅰ	1・2通			1		○			1					1	集中 オムニバス
	生物資源科学特別講義Ⅱ	1・2通			1		○			1					1	集中
	生物資源科学特別演習Ⅰ	1・2通			2			○		1						
	生物資源科学特別演習Ⅱ	1・2通			1			○		1						
	Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後			2		○			1						
	Advanced Plant Chemistry	1・2前			2		○			2	1					オムニバス
	Advanced Biological Chemistry	1・2前			2		○								1	
	Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後			2		○			1	1		1			オムニバス
	Advanced Plant ProductionⅠ	1・2後			2		○			3						オムニバス
	Advanced Plant ProductionⅡ	1・2前			2		○			3	2					オムニバス
	Advanced Environmental Conservation	1・2後			2		○			2	3					オムニバス
	Advanced Plant Protection	1・2後			2		○				4					オムニバス
	Environmental Remote Sensing A	1・2前			1		○			1						集中
	Environmental Remote Sensing B	1・2前			1		○				1					集中
	山岳流域環境学概論A	1前			1		○			1						集中
	山岳流域環境学概論B	1前			1		○			1						集中
	山岳流域フィールド実習A	1後			1				○	1	2					集中 オムニバス
	山岳流域フィールド実習B	1・2前			1				○	1	2				1	集中 オムニバス
	山岳流域コミュニケーションスキル	2後			1			○		1						集中
	Field Practice in Tenryu Forests : from Plantation to Nutural Laurel Forest	1前			1			○		1	2					集中 オムニバス
	小計 (68科目)	—	—	0	110	0	—	—	—	22	16	0	4	0	5	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 (助手を除く) の教員	
生物資源科学コース	プログラム選択必修科目															
	生命環境倫理学特論	1・2前			2		○			1						
	農業経営経済学特論	1・2前			1		○			1						
	実践園芸学特論	1・2前			1		○			1						
	植物圏微生物学特論	1・2後			1		○				1					
	農業経営経済学演習	1・2前			2			○		1						
	生命環境倫理学演習	1・2後			2			○		1						
	実践園芸学演習	1・2前			2			○		1						
	植物圏微生物学演習	1・2前			2			○			1					
	生物資源科学特別演習Ⅰ	1・2通			2			○		1						
	生物資源科学特別演習Ⅱ	1・2通			1			○		1						
	生物資源科学特別講義Ⅰ	1・2通			1		○			1						集中
	生物資源科学特別講義Ⅱ	1・2通			1		○			1						集中
	小計(12科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	4	1	0	0	0	0	
生物資源科学コース	プログラム選択科目															
	花卉園芸学特論	1・2前			1		○			1						
	野菜園芸学特論	1・2後			1		○			2						オムニバス
	収穫後生理学特論	1・2後			1		○			1	1					オムニバス
	果樹機能開発学特論	1・2前			1		○								1	集中
	花卉園芸学演習	1・2後			2			○		1						
	野菜園芸学演習	1・2前			2			○		1						
	収穫後生理学演習	1・2前			2			○								
	青果保蔵学演習	1・2前			2			○			1					
	果樹機能開発学演習	1・2後			2			○							1	
	害虫防除学特論	1・2前			1		○				1					
	応用昆虫学特論	1・2前			1		○				1					
	植物病理学特論	1・2後			1		○				1					
	農業生態学特論	1・2後			1		○			1						
	園芸生理学特論	1・2前			1		○					1				
	バイオインフォマティクス特論	1・2前			1		○			1						
	害虫防除学演習	1・2前			2			○			2					オムニバス
	植物病理学演習	1・2前			2			○			1					
	農業生態学演習	1・2前			2			○		1						
	園芸生理学演習	1・2前			2			○				1				
	進化生態学演習	1・2前			2			○				1				
	バイオインフォマティクス演習	1・2前			2			○		1						
	土壌微生物学特論	1・2前			1		○				1					
	土壌微生物学演習	1・2後			2			○			1					
	静岡学連携特別講義	1・2後			1		○			1						
	Advanced Forest EcologyⅠ	1・2前			1		○			1						集中
	Advanced Forest EcologyⅡ	1・2前			1		○			1						集中
	造林学特論Ⅰ	1・2後			1		○				1					
	造林学特論Ⅱ	1・2後			1		○				1					
	森林生理生態学特論Ⅰ	1・2後			1		○			1						集中
	森林生理生態学特論Ⅱ	1・2後			1		○			1						集中
	森林水文学特論Ⅰ	1・2後			1		○					1				
	森林水文学特論Ⅱ	1・2後			1		○					1				
	森林生態学演習	1・2前			2			○			1					
	砂防工学演習	1・2前			2			○		1	1					集中
	森林生態管理学演習	1・2後			1			○			2					オムニバス
	改良木材学特論	1・2前			2		○				1					
	木質構造学特論	1・2前			2		○				1					
	セルロースナノファイバー科学特論	1・2前			2		○			1						
	木質化学特論	1・2後			2		○			1	1					オムニバス
	高分子複合材料学特論	1・2後			2		○			1						
	木質素材機能学特論	1・2後			2		○					1				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合科学技術研究科農学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
生物資源科学コース	農食コミュニケーションデザイン教育プログラム	プログラム選択科目	改良木材学演習Ⅰ	1・2前				○		1	1					オムニバス
			住環境構造学演習Ⅰ	1・2前				○			1					
			改良木材学演習Ⅱ	1・2前				○		1	1					オムニバス
			木質生化学演習Ⅰ	1・2前				○		1	1					オムニバス
			木質生化学演習Ⅱ	1・2前				○		1	1					オムニバス
			高分子複合材料学演習Ⅰ	1・2前				○		1			1			オムニバス
			高分子複合材料学演習Ⅱ	1・2前				○		1			1			オムニバス
			木質素材機能学演習Ⅰ	1・2前				○					1			
			木質素材機能学演習Ⅱ	1・2前				○					1			
			住環境構造学演習Ⅱ	1・2前				○			1					
			持続可能型農業科学特論	1・2後			○				1					
			生態学特論	1・2後			○			1						
			持続可能型農業科学演習	1・2前				○			1					
			生態学演習	1・2前				○		1	1					オムニバス
			住環境科学特論	1・2後			○				1					
			バイオマス環境学演習	1・2前				○			1					
			山岳流域防災学特論	1・2後			○			1						
			森林・林業デジタル技術演習	1・2後				○			1					集中
			Advanced Biotechnology and Bioengineering	1・2後			○			1						
			Advanced Plant Chemistry	1・2前			○			2	1					オムニバス
			Advanced Biological Chemistry	1・2前			○								1	
			Advanced Food and Nutritional Chemistry	1・2後			○			1	1		1			オムニバス
			Advanced Plant ProductionⅠ	1・2後			○			3						オムニバス
			Advanced Plant ProductionⅡ	1・2前			○			3	2					オムニバス
			Advanced Environmental Conservation	1・2後			○			2	3					オムニバス
			Advanced Plant Protection	1・2後			○				4					オムニバス
			Environmental Remote Sensing A	1・2前			○			1						集中
			Environmental Remote Sensing B	1・2前			○				1					集中
			小計(69科目)	—	—	0	110	0	—	19	19	0	5	0	2	
応用生命科学コース	コース必修科目		応用生命科学特別研究	1～2通			12		○	13	4		3			共同
			小計(1科目)	—	—	12	0	0	—	13	4	0	3	0	0	
	コース選択科目		応用生命科学特別演習Ⅰ	1・2後				○		1						
			応用生命科学特別演習Ⅱ	1・2通				○		1						
			植物化学特論	1・2前			○			2	1					オムニバス
			植物化学演習Ⅰ	1・2前				○		2	1					オムニバス
			植物化学演習Ⅱ	1・2後				○		2	1					オムニバス
			生物化学特論	1・2前			○								3	オムニバス
			生物化学演習Ⅰ	1・2通				○							3	オムニバス
			生物化学演習Ⅱ	1・2通				○							3	オムニバス
			環境生命機能学特論	1・2前			○			2						オムニバス
			環境生命機能学演習Ⅰ	1・2後				○		2						オムニバス
			環境生命機能学演習Ⅱ	1・2前				○		2						オムニバス
			食品栄養化学特論	1・2後			○			1	1		1			オムニバス
			食品栄養化学演習Ⅰ	1・2前				○		1	1		1			オムニバス
			食品栄養化学演習Ⅱ	1・2前				○		1	1		1			オムニバス
			分子生体機能学特論	1・2後			○			1	1		1			オムニバス
			分子生体機能学演習Ⅰ	1・2通				○		1			1			オムニバス
			分子生体機能学演習Ⅱ	1・2通				○		1			1			オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合科学技術研究科農学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
応用生命科学コース	コース選択科目	細胞生物学特論	1・2後			1		○								1	オムニバス オ

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合科学技術研究科農学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員(助手以外の教員)	
学位又は称号		修士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係									
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
課程修了の認定は、研究科に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者について行う。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を挙げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 なお、コースごとの所定の単位の内訳は以下のとおりである。 【生物資源科学コース】 ①コース必修科目「生物資源科学特別研究」（12単位）を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③プログラム選択必修科目から4単位以上を修得していること。 ④プログラム選択科目から10単位以上を修得していること。ただし、指導教員の許可を得て、4単位を超えて修得した研究科共通科目、4単位を超えて修得したプログラム選択必修科目、他コース、他専攻、他研究科、他大学院で開講する科目から10単位までを、プログラム選択科目の単位数に含めることができる。 【応用生命科学コース】 ①コース必修科目「応用生命科学特別研究」（12単位）を修得していること。 ②研究科共通科目から4単位以上を修得していること。 ③コース選択科目から14単位以上を修得していること。ただし、指導教員の許可を得て、4単位を超えて修得した研究科共通科目、他コース、他専攻、他研究科、他大学院で開講する科目から10単位までを、コース選択科目の単位数に含めることができる。								1 学年の学期区分				2期					
								1 学期の授業期間				15週					
								1 時限の授業の標準時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学基礎科目	ウェルビーイング科学特論		高度な共創型人材が寄与すべき持続可能な一人ひとりの多様な幸せ（well-being）に関係する課題を「人間と社会のウェルビーイングに関する課題」、「地球環境のウェルビーイングの課題」に分類し、それぞれの観点から社会課題を俯瞰できる知識を学び、関係する課題について俯瞰できるようになる。 （オムニバス方式、共同（一部）/全15回） （1 池田恵子/1回）社会の課題とウェルビーイング（差別，格差，少子高齢化①）について講義する。 （2 祝原豊、3 杉山康司、14 村田真一/2回、共同）人間の課題とウェルビーイング（スポーツ，健康科学）について講義する。 （4 須藤智/2回）ウェルビーイングに関する課題、まとめについて講義する。 （4 須藤智、30 坂本孝丈/2回、共同）人間の課題とウェルビーイング（テクノロジーとの共生）について講義する。 （5 崔宰熏/1回）地球環境の課題とウェルビーイング（エコ，生物多様性①）について講義する。 （6 平井浩文/1回）地球環境の課題とウェルビーイング（気候変動，環境汚染①）について講義する。 （7 正木祐史/1回）人間の課題とウェルビーイング（精神的豊かさ，社会制度）について講義する。 （13 松澤祐介/1回）社会の課題とウェルビーイング（グローバル化，地域創生①）について講義する。 （16 太田美帆/1回）社会の課題とウェルビーイング（差別，格差，少子高齢化②）について講義する。 （17 立花由美子/1回）社会の課題とウェルビーイング（グローバル化，地域創生②）について講義する。 （18 小野晶子/1回）地球環境の課題とウェルビーイング（気候変動，環境汚染②）について講義する。 （21 村上博紀/1回）地球環境の課題とウェルビーイング（エコ，生物多様性②）について講義する。	オムニバス方式・共同（一部）
	実践英語Ⅰ		研究活動に不可欠な「背景説明」「研究目的の明確化」「方法の記述」「結果の整理」「考察の提示」といった学術的構造を英語で適切に表現できる能力を段階的に修得させる。また、専門分野に固有の語彙・表現を適切に用いるとともに、英語による質疑応答の基本対応力を身に付ける。	
	データサイエンス・AI演習		データサイエンス・AIの技術の様々な分野での活用に向けて、複数のモデル化手法や分析手法から適切な方法を選択するための知識やPythonによるプログラミング、各自の研究テーマに即したデータサイエンス・AIの最新の方法論等について演習を通して実践的に学び、それぞれの手法の活用に向けた基礎的なスキルを身に付ける。	
	共創デザイン論		共創活動によって「人間と社会のウェルビーイングに関する課題」に取り組む実践家や専門家、研究者からの話題提供、議論等を行うワークショップを実施することによって、共創を通して「人間と社会のウェルビーイングに関する課題」に関する社会課題に取り組むための知識やスキルを身に付ける。	
	実践英語Ⅱ		専門的研究内容を国際水準で発信できる高度なプレゼンテーション能力を涵養するとともに、想定外の質問に対する即応的対応力、批判的議論への参加能力、異分野研究者との建設的ディスカッション能力を強化する。 さらに、議論を展開する能力を養い、国際的研究コミュニティにおいて主体的に発信・連携できる研究者基盤を確立することを目的とする。	
	データサイエンス・AI論		データサイエンス・AIに関する最新のトピックについてその方法論等について実習を通して学び、最新の人工知能（AI）に関する技術やサービスの基礎的な仕組みと活用方法を理解し、データに基づく論理的・批判的な思考と議論に活用するためのスキルを身に付ける。また、AI技術の限界と人-AI、人同士の共創の可能性について実践的に学び、共創型研究においてデータサイエンス・AIを活用できるようになる。	講義 8 時間 演習 8 時間
	インターンシップ		企業・団体等でのインターンシップを通して、自らの共創型研究のスキル、知識についてより深め、将来向き合う現場での共創型研究の実践力を高める。	集中

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共 創 科 学 専 門 科 目	共 生 社 会 創 造 領 域	海外研修		海外での団体・研究室での研修活動を通して、グローバルな観点から自らの共創型研究のための知識、スキルを深め、将来向き合う現場での共創型研究の実践力を高める。	集中
		社会学特論		共生社会の実現に向けて社会的課題を共創的に解決する力を養うため、社会保障、災害、移民に着目し、講義を進める。講義を通して、解決のための多様なアプローチを学んだり、過去にさかのぼって分析することで問題の所在を深く理解できるということを学ぶ。社会的課題解決のさまざまなアプローチに触れることで研究に対する視野を広げ、自身の研究の解釈や今後の研究計画の立案に役立てることができるようになるとともに、課題から学んだことを現場にフィードバックする方法を事例から学びとることができるようになる。 (オムニバス方式・共同（一部）／全8回) (1 池田恵子/2回) 防災・減災およびレジリエンスについて講義する。 (16 太田美帆/2回) 社会的危機とその管理、社会保障について講義する。 (25 定松文/3回) ガイダンス、移民と社会的排除・包摂について講義する。 (1 池田恵子、16 太田美帆、25 定松文/1回、共同) 講義全体にわたるまとめと討論を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		社会学演習		総合知を意識しながら社会学及びその周辺領域の文献講読を行うとともに、文献の内容をまとめた資料を作成し、資料をもとにプレゼンテーションを行う。それを通して、先行研究の内容を理解できる能力、共創的な想像力や発想力、プレゼンテーションスキル、考察を深めるスキルなど、一連の研究プロセスを自ら行うことができる力を養う。 (オムニバス方式・共同（一部）／全8回) (1 池田恵子/2回) 災害脆弱性および災害リスク削減に関する文献講読と議論を行う。 (16 太田美帆/3回) ガイダンス、社会的危機管理および社会保障に関する文献講読と議論を行う。 (25 定松文/2回) 国際移民および多文化共生に関する文献講読と議論を行う。 (1 池田恵子、16 太田美帆、25 定松文/1回、共同) 受講生の今後の研究に向けて全体のまとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		建築計画学特論		本授業では、地域施設計画における多角的視点を学ぶ。まず、ミュージアムの歴史的発展を概観し、社会教育機関としての役割を理解する。つぎに、国内外の事例を通じて地域活性化のための公民連携の仕組み、地質・文化遺産を活かした観光振興などを理解する。最後に、持続可能な地域社会をつくるために多様な公民連携モデルを通して、地域施設計画・運営方法の理解を深める。これらにより、建築計画や都市計画の見方・考え方で整理し、地域施設における機能や制度について説明し、地域社会の課題とその解決策について論述できるようになる。	
		建築計画学演習		建築計画・都市計画に関する学術論文を輪読し、専門用語を理解し、ディスカッションしながら、研究方法を理解する。そして、各自の研究課題に関連する学術論文を選定し、その論文内容についてプレゼンテーションを行いながらその分野の研究方法を学ぶ。これらにより、学術論文の課題について、専門用語を用いて正確なディスカッションができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学 専門科目	共生社会 創造領域	文化・芸術学特論		現代社会において、我々の生活領域のあらゆる場面において顕在化する文化表象は、我々の価値判断や行動、制度などの様々な側面に、意識的、無意識的に影響を及ぼしている。本授業では、文化表象の基本を踏まえた上で、その歴史性や政治性、及び文化表象の実践について、文化人類学と芸術学の観点からアプローチし、現代社会における文化表象のあり方について、多角的な視点から理解を深める。 (オムニバス方式・共同（一部）/全8回) (17 立花由美子/3回) 文化表象の政治学④：“アート”をつくる場（champ）、文化表象の政治学⑤：展示すること、展示されること、展示されないこと、文化表象の政治学⑥：“curate”するとは何か？ (29 川崎和也/3回) 文化表象の政治学①：オリエンタリズム、文化表象の政治学②：ライティング・カルチャー、文化表象の政治学③：芸術＝文化システム (17 立花由美子、29 川崎和也/2回、共同) イントロダクション：文化の表象とは？、まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		文化・芸術学演習		本授業では、文化表象の歴史性や政治性、及び文化表象の実践に関する学術論文の精読及びディスカッションを通じて、現代社会における文化表象のあり方について、多角的な視点から理解を深めるとともに、博物館での展示分析及び展示提案を通じて、批判的に文化を捉えキュレーションする力を養う。 (オムニバス方式・共同（一部）/全8回) (17 立花由美子/1回) 文化表象に関する学術論文の講読とディスカッション②—The culture of curation and the curating of culture(s)（第1章） (29 川崎和也/1回) 文化表象に関する学術論文の講読とディスカッション①—The Museum of Other People（第1章） (17 立花由美子、29 川崎和也/6回、共同) イントロダクション、博物館の展示分析とディスカッション①—日本民藝館、博物館の展示分析とディスカッション②—静岡市立芹沢銈介美術館、キュレーション企画、キュレーション実践、まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		文化・言語学特論		この授業では、社会言語学の中でも、英語を基本とするが、言語使用者の言語に対する態度、その言語が使用される状況によりどのように変化するのか、世界で話されている英語の種類、そして階級社会による言語の違いや相似に関して学び、英語を中心とした言語が使われる時の、話し手の態度、使われる言語の種類を選択方法、方言や階級による言語の違いなどを理解できるようになる。	
		文化・言語学演習		この授業では、世界で使われている英語のうち、具体例としてニュージーランド英語の特徴を学びつつ、世界で使われている英語の相似・違いを学ぶ。また男女によって英語の使われ方の相似や違いを学び、英語教育を社会言語学の視点から考察することで、社会言語学的な視点を持てるようになる。	
		経済・経営学特論		特に1980年代以降進展した経済のグローバル化を俯瞰し、その功罪と展望を検討する。自由貿易、直接投資の促進と国際的な資金へのアクセスを通じて先進国・途上国ともに得た経済成長の恩恵から、その「果実」に与れなかった層による米国をはじめとした反グローバル化の動向まで、国際経済の理論とグローバル化の現状を組み合わせる複眼的に理解する。これらにより、経済のグローバル化の展開をデータから分析し、成果を説明し、課題を発見できるようになる。	
		経済・経営学演習		経済のグローバル化に関する各イシューに関して、受講者の問題関心を涵養し、自ら研究課題を設定、文献を収集して研究を進め、関連する近接の学問分野との総合知を意識しつつ適切に報告することで、自らの研究プロセスのスタイルを獲得することを目指す。そのため、各回では報告者を決めた上で、専門書や国際機関等の報告書等の文献資料やデータを精読・分析し、その内容にかかる資料作成と報告及びそれに関する教員・受講者との質疑応答・議論を行う。	

授業科目の概要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学専門科目	共生社会創造領域	イノベーション学特論		組織イノベーションにおける日本の状況や基礎を学び、基本的な概念、理論などの知識を修得し、活用する能力を身に付けるとともに、スタンツ等により体得して、組織イノベーションの観点からの説明力を養う。そのために、組織イノベーションの阻害要因と対策の議論を通じて、体得し理解を深める。さらに、体得のために共創による課題解決型のスタンツを取り入れ、創造性を生かした表現によるアウトプットを行うことで、阻害要因と対策（提言）を主体的に自らの体験として学んでいく。	
		イノベーション学演習		イノベーション学特論で学んだ組織イノベーションにおける日本の状況や基礎、イノベーションを阻害している要因などをもとに、課題演習を通じて、共創による対策を企画立案し、提言として発表することで、基本的な概念、理論などの知識を応用できる能力を身に付けるとともに、課題演習を通じて、対策を議論、共創により企画立案し、提言として発表する力を養う。	
		法学・倫理学特論 A		医療現場における生命・身体の処分に係る事象を素材として、その事象が抱える倫理的・法的課題を理解し、解決策を探究することによって、社会的課題の解決にとって倫理的・法的観点が重要であることを学ぶ。 (オムニバス方式・共同（一部）/全8回) (7 正木祐史/4回) 医療現場における法的問題①概説、医療現場における法的問題②文献講読①、医療現場における法的問題③判例分析、医療現場における法的問題④文献講読② (27 堂園俊彦/2回) 医療現場における倫理問題①概説、医療現場における倫理問題②文献講読 (7 正木祐史、27 堂園俊彦/2回、共同) イントロダクション、まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
		法学・倫理学演習 A		医療現場において倫理的・法的課題を抱える事象から受講者が自らテーマ設定し、そのテーマについて探究した結果を報告して相互に議論することにより、社会的課題の解決に必要な倫理的・法的観点の獲得を目指す。 (全8回) (7 正木祐史/6回) イントロダクション、構想発表①受講者 A 群、構想発表②受講者 B 群、最終報告①受講者 A 群、最終報告②受講者 B 群 (7 正木祐史、27 堂園俊彦/2回、共同) テーマ設定、最終報告に向けた問題解決のための質疑・議論	共同（一部）
		法学・倫理学特論 B		バイオテクノロジー、AIを題材として、これらの先端的なテクノロジーの進化・普及がもたらす問題、特に法的な課題や関連する議論動向を理解できるようになる。 (オムニバス方式/全8回) (22 板倉美奈子/4回) イントロダクション&バイオテクノロジーと法①、バイオテクノロジーと法②ー遺伝子組換え技術・ゲノム編集技術、バイオテクノロジーの法③ー人権、社会的公正という視点からみた課題、バイオテクノロジーと法④ーさまざまな取組みと今後の展望 (26 朱曄/4回) AIと法①ー概観と応用の現状・展望、AIと法②ー応用をめぐる民事法制上の課題、AIと法③ー民事法制上の課題解決への検討：パーソナルデータの利活用を中心に、AIと法④ーさまざまな取組：在宅スマートケア実現に向けた取組みを中心として	オムニバス方式
		法学・倫理学演習 B		先端的なテクノロジーにまつわる倫理的・法的課題（ELSI）に関して、教員と受講生との協議によりテーマを選択・設定し、受講生それぞれが目指すべきと考える＜社会との調和がとれたテクノロジー＞像、その実現に向けた課題や実現までのプロセスなどについてディスカッションすることを通じて、自分なりの考えを持てるようになる。 (オムニバス方式・共同（一部）/全8回) (22 板倉美奈子/2回) 先行研究の輪読&ディスカッション・1、先行研究の輪読&ディスカッション・2 (26 朱曄/2回) 先行研究の輪読&ディスカッション・3、先行研究の輪読&ディスカッション・4 (22 板倉美奈子、26 朱曄/4回、共同) イントロダクション、課題の設定・発表、研究発表&ディスカッション、まとめ・講評	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学 専門科目	共生社会 創造領域	心理学特論		現代社会の課題解決に取り組む共創型研究において心理学の理論、方法論がどのように活用可能なのか、特に認知心理学、社会心理学、臨床心理学の最新の文献の講読を通して受講者で議論する。その議論を通して、心理学の理論、方法論についての知識を深め、共創型研究における心理学研究の役割を考えられるようになる。 (オムニバス方式/全8回) (4 須藤智/4回) 認知心理学の諸理論と方法論・ガイダンス、 心理学研究（基礎心理学）のトピック、心理学研究（認知心理学）のトピック、心理学研究の共創型研究の展開 (20 満下健太/2回) 社会心理学の諸理論と方法論、心理学研究（社会心理学）のトピック (24 江口昌克/2回) 臨床心理学の諸理論と方法論、心理学研究（臨床心理学）のトピック	オムニバス方式
		心理学演習		各自が取り組む研究テーマに関わる心理学分野の研究論文の文献講読を通して、各自の共創型研究における心理学研究の理論・方法論の応用手法について深める。 (4 須藤智、20 満下健太、24 江口昌克/全8回、共同) 共創型研究における心理学的の理論と方法論、文献購読：発表と議論（3グループに分け各2回ずつ行う）、共創型研究における心理学的の理論と方法論まとめ	共同
		スポーツ科学特論 A		スポーツ科学に関するキーワードを理解し、研究雑誌からいくつかのトピックスで文献検索を行う。研究実践例を討論しながら、具体的な文献を欧文抄読し、国際的な視野で本分野を理解する。研究実践例においてはトピックスとしてW-upの科学、暑熱環境実験、低酸素環境トレーニング、ウォーキングとランニングなど、受講生の修士論文のテーマに近い内容を3トピックス選択し、具体的な文献（欧文）を抄読し、国際的な視野で本分野を討論する。関連分野の検索は話題となっている情報をスポーツ・健康科学をベースとした学術英文誌から検索し近々の課題とする。これらの検索した論文から抄読する研究論文をみつけ、各自でその論文抄読プレゼンテーションを実施しながら研究法を学ぶ。これらにより、体力・健康科学的な研究について理解を深め、原著論文を抄読しながら研究成果について専門用語を用いて正確なディスカッションができるようになり、抄読した論文における実験方法や測定機器の原理について理解し、体力科学に応用するための基礎を修得する。	
		スポーツ科学演習 A		スポーツ科学分野における測定方法や測定原理などの十分知識を身に付け、正確な測定法を学ぶ。テーマとして体格評価、安静心電図と心拍変動解析、運動負荷テスト、最大酸素摂取量測定、最大酸素負荷量測定、最大パワーテスト、EMG測定、について修得し、各テーマでのレポート課題についてプレゼンと討論を行う。これらにより、実験機器の正確な操作、測定原理、測定項目の理解度を身に付けるとともに、科学データの収集、分析する情報処理能力を高め、運動生理学分野でのパラメータについて実際に実験、測定をすることによりスポーツ科学の一面を理解し、生涯教育における運動を用いた健康づくりとスポーツに関する基礎的知識とその重要性について修得する。	
		スポーツ科学特論 B		授業の前半では、現代社会の特徴を捉え、健康と身体それぞれの意味について理解する。双方の関係を運動・スポーツを切り口に考える。後半では、健康やスポーツに関わる諸問題について、それぞれ文献などを用いて探求し、分析・発表・議論を通して理解を深める。これらにより、現代における健康課題を具体にあげ、運動の意義と方法について互いの理解を深めつつ、解決策を論理的に捉え発信できる能力を身に付ける。	
		スポーツ科学演習 B		スポーツや健康に関する講義やその他の蓄積を踏まえ、研究の手続きや論文作成を考える土台を形成する。主には研究の目的・仮説に対する方法の組み立てについて、演習形式で積み重ねを行う。また実際に計画した測定を行い、得られたデータの検証・分析・考察をし、各自での見解を共有することで健康運動に関する科学的アプローチの視点を互いに深める。これらにより、国内外の文献を用いて、スポーツや健康課題に対する手段や結果についての分析・検証を繰り返し、自身の研究の組み立てや考察できる力をつける。また、健康に対するアプローチのひとつとして運動の効果やその処方について、主に運動生理学的側面より考察し発信できるようになる。	

授業科目の概要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学専門科目	共生社会創造領域	スポーツ科学特論 C		我が国のスポーツ振興の歴史を把握し、スポーツ振興法とスポーツ基本法の違いや、そのほかスポーツ関連法規から、未来社会に望ましいスポーツ推進の在り方について学修する。また、文化芸術基本法との違いから、スポーツ推進の固有性や特徴についても学修する。さらに、スポーツ推進を具現化するための「スポーツ経営」の基礎理論について学修する。スポーツ経営の基礎理論については、特に、「スポーツ生活論」「スポーツ事業論」「スポーツ組織論」について理解を促す。これらにより、今日のスポーツ推進の法－政策－経営－現場活動の関わり合い、特に、今日のスポーツ経営の実情と課題を整理し、望ましいスポーツ推進の理論について理解できるようになる。	
		スポーツ科学演習 C		今日のスポーツ推進の一事例として「総合型地域スポーツクラブ」を取り上げ、そのマネジメントに関する成果と課題を明らかにするための研究方法について学修する。特に、アンケート調査に関して、その設計と、調査方法、分析方法について学修する。具体的には、これまでの先行調査を紹介し、一通り分析の仕方を一斉に実施する。その後、各自が本調査を基に分析課題を定め、短報（A4版で6ページ以内）を作成し、その成果発表（口頭発表）を通じて議論を深めていく。これらにより、「総合型地域スポーツクラブ」の経営課題を実証するための方法論（スポーツ経営学研究）、特に、量的研究法としてのアンケート調査について、その設計と調査方法、分析手法について理解できるようになる。	
自然環境創造領域		グローバル共創科学特別実験Ⅰ		研究テーマに関連する基礎実験・予備実験の実施、実験計画書の作成と倫理的配慮に関する学習、データ解析法（統計・画像解析・分子生物学的手法など）の演習、研究成果のミニプレゼン・ディスカッションを行うことにより、「グローバル共創科学特別研究Ⅰ」で行う修士論文研究の基礎となる実験的スキル・方法論・共創力を育成する。学生は自身の研究テーマに関連する実験設計を行い、主指導教員の助言の下で基礎的なデータ取得・解析を実施する。さらに、異分野の学生や外部有識者とのディスカッションを通じて、研究テーマの社会的意義や学際的連関を理解する。	
		グローバル共創科学特別実験Ⅱ		「グローバル共創科学特別実験Ⅰ」で培った実験スキルを発展させ、主指導教員と副指導教員による複眼的指導のもと、学際的な共創実験を実施し、共創により得られた成果を主・副指導教員、研究室メンバー及び外部有識者と議論し、本成果により修士論文研究を進める。これらにより、自らの修士論文研究を深化させるために、異分野の知見を融合する実践的能力を養う。	
		環境生物化学特論		主に2つの課題について論ずる。第一は、微生物を用いたバイオリファイナリーについて学修する。第二は、微生物を用いたバイオレメディエーションについて学修する。これらの基礎、最新研究事例や実用例を中心に学修する。これらにより、プラネタリーヘルスが望まれる現在の地球環境においてグリーントランスフォーメーションを達成すべく、微生物の能力を農学的知見から理解し、地球環境問題を科学的に解決する能力を培うことを目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (6 平井浩文/4回) 序論（現代の地球環境問題について、地球環境における微生物の機能・役割）、バイオレメディエーションの基礎、バイオレメディエーションの最新研究事例（POPs編）、バイオレメディエーションの実用例 (18 小野晶子/4回) バイオリファイナリーの基礎、バイオリファイナリーの最新研究事例、バイオリファイナリーの実用例、まとめ（グリーントランスフォーメーションへの展開について）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学専門科目	自然環境創造領域	環境生物化学演習		(1) 木材腐朽菌の有する木材分解機構、(2) 微生物を用いたバイオリファイナリー、(3) 微生物を用いたバイオレメディエーション、(4) 各種能力を強化する微生物育種法、これらの最先端の学術論文を採り上げて演習を行なう。発表者は、予め論文の内容をレジメにして参加者全員に配布し、その内容について説明して討論を中心としてセミナーを進める。これらにより、受講生が順番で最新の学術論文（英語）を翻訳し内容を説明して知識を深めるとともに、プレゼンテーション能力を向上させ、さらに質疑応答を通してディベート能力も向上させることを目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (6 平井浩文/4回) ガイダンス（本演習の進め方、成績評価について）、微生物を用いた難分解性環境汚染物質分解に関する文献紹介とディスカッション、微生物を用いた医薬品分解に関する文献紹介とディスカッション、各種能力を強化する微生物育種法に関する文献紹介とディスカッション (18 小野晶子/4回) 木材腐朽菌による木材分解機構に関する文献紹介とディスカッション、微生物を用いたバイオ燃料生産に関する文献紹介とディスカッション、微生物を用いたプラスチック原料生産に関する文献紹介とディスカッション、演習のまとめ（微生物利用の可能性について）	オムニバス方式
		天然物化学特論		植物、菌類、細菌の生体中で様々な機能を有する物質群について、低分子化合物、高分子化合物を問わず学修する。有機化学的あるいは生化学的な観点から、その構造、性質、機能、相互作用などを論ずる。必要に応じて外部から講師を招いて最先端の研究の紹介を行う。これらにより、様々な生物における生命現象を、有機化学的、生化学的、分子生物学的に思考し、科学的問題を解決する能力を培う。	
		天然物化学演習		植物、菌類、細菌の生体中で様々な機能を有する物質群についての種々の研究手法について、各自がスライドを用いて発表し、その内容について討論する。これにより、それらをスライドにまとめてプレゼンテーションし、討論することができる能力を培う。	
		生命科学特論		本講義前半では、植物、藻類、シアノバクテリアなどの光合成生物に焦点をあて、分子・細胞レベルから生態系・地球環境に至るスケールでの光合成及び関連する生理応答の意義について学ぶ。光合成のメカニズム、生理生態、進化と多様性、環境応答といった観点を通じて、光合成生物として生きるとはどのようなことかについて理解を深める。後半では、発生・再生に共通して見られる生物学的な現象や、それを制御する細胞・分子メカニズムについて学び、動物の発生と再生現象を制御するメカニズムを、細胞レベル・分子レベルで理解し、説明できるようになる。またこの分野での発展的・応用的な研究技術とその考え方を理解する。 (オムニバス方式/全8回) (21 村上博紀/4回) 光合成の分子機構とエネルギー変換、光合成生物の進化と多様性、光合成生物の環境応答・代謝調節、光合成研究の応用展開 (28 小池亨/4回) 動物発生の基本プロセス、細胞間コミュニケーションと運命決定、動物の再生とそのメカニズム、生命を操る：発生工学とその応用展開	オムニバス方式
		植物・藻類生理学演習		研究室内ゼミとして、研究進捗報告発表及び論文紹介を行う。論文紹介については、自身の研究テーマに関連する英語論文を自分で選出し、論文の研究背景や実験手法、結果、議論内容を十分に理解した上で、その内容をまとめて30分程度で発表する。発表内容についての質疑応答も行う。発表者以外の学生は質疑応答に参加する。これらにより、各自の研究に関する進捗報告とそのテーマに関連する英語論文の調査と読解ができるようになる。また、論文の内容（研究背景・課題・報告内容）を理解し、それについて質疑応答ができるようになる。	
		天体物理学特論		この授業では、宇宙の初期から存在する銀河の天体物理学について解説する。銀河の基本構成要素である恒星と我々の住む銀河系の基本的な性質、そして宇宙を観察する道具である望遠鏡の仕組みについて解説した後、近傍の銀河から遠方の宇宙へと発展させる。電磁波の性質、重力、そして物質の形成などの基礎知識についても解説を加える。 天文学・天体物理学の歴史や社会との関わり、技術進歩、天体の物理、特に銀河に関わる物理を包括的に学ぶことで、基礎科学としての天文学の実例を知る。天体現象を記述するための数学や物理学の基礎を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創科学専門科目	自然環境創造領域	天体物理学演習		この授業では、アルマ望遠鏡やジェームズウェッブ宇宙望遠鏡など最先端の望遠鏡が取得した天文観測データを用いて、天文学の一連の研究プロセスを体験する。まず、Google ColaboratoryとPythonを利用して、天体画像から必要な情報を抽出する。そこから統計学や物理学を使い、天体の物理量を推定する。最後に、導出した物理量から天体についての議論を行い、結果をまとめ、発表する。天体现象を記述するための数学や物理学を学ぶことで、物事を根源的に捉える方法論を学ぶ。加えて、天文データの扱い方や、解析、解釈の手法を修得する。	
		材料科学特論		LCAの観点からマテリアルリサイクルの重要性を理解し、未活用バイオマスを活用したセルロース/樹脂複合材料の社会実装に向けて、製品コンセプトを立案するとともに、原料調製から製品化までのコスト計算ができるようになる。	
		材料科学演習		カーボンニュートラル社会の実現に向けて、セルロースを活用することの重要性を理解する。LCAの計算方法を理解し、LCAおよび原料・製造コストの観点からセルロース/樹脂複合材料の開発提案ができるようになる。	
		環境エネルギー工学特論		科学技術の発展に伴い、水資源の利用が拡大し、水質汚染や水資源の枯渇、生態系への影響など、さまざまな水環境問題が生じている。本講義では、これらの水環境問題の現状を把握し、問題が発生するメカニズムや、その解決に向けた技術・対策について学ぶ。水環境に関する諸問題の背景を理解し、水資源の保全、水質汚染の防止、及び持続可能な水環境の構築に向けた技術やアプローチについて考察する力を養うことを目指す。	
		環境エネルギー工学演習		バイオ燃料電池・バイオ電解セルの基礎原理、難分解性プラスチックの微生物分解、堆積物中の微生物群集による環境浄化、人工微生物コンソーシアムの構築など、環境微生物工学に関する研究動向を論文講読と討論を通じて学ぶ。これらにより、バイオエネルギー技術を中心に、環境汚染物質の分解や再生可能エネルギーの創出に関する先端研究を理解し、環境バイオテクノロジーの応用力を養う。	
		物質創成化学特論		天然物合成化学を題材にサーキュラーバイオエコノミーに資する機能性材料の設計とそれらを論理的かつ効率的に合成するための方法論を修得することを目標とする。	
		物質創成化学演習		物質創成化学に関する最新の研究動向について学術論文を通じて理解し、合成・機能解析に関する専門的知識を深化させるとともに、発表および討論を通して論理的思考力と表現力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 知 創 出 科 目	共創コロキウムⅠ		共創コロキウムは、様々な社会課題に取り組む諸領域の専門家及び研究者、ステイクホルダーが参画し、受講者の研究課題について研究発表並びに討議を行う場である。共創コロキウムⅠでは、参加者間の議論及びワークショップによる共創的な議論を通じて、自らの研究課題を俯瞰的かつ多角的な視座から再検討し得るとともに、異分野間の知見・経験の融合による高度な総合知の創出に繋がる研究計画の立案ができるようになる。 (1 池田恵子、2 祝原豊、3 杉山康司、4 須藤智、5 崔宰熏、6 平井浩文、7 正木祐史、8 青木憲治、9 石川宏之、10 稲井誠、11 斉藤俊貴、12 坪井秀次、13 松澤祐介、14 村田真一、15 山本好比古、16 太田美帆、17 立花由美子、18 小野晶子、19 金キョンミン、21 村上博紀/全8回、共同) 学生に研究の発表を行わせ、各学生の研究課題・計画について異分野間の知見・経験を持った参加者らと共創的な議論を行い、各自の研究からの総合知創出可能性を高める。	集中・共同
	共創コロキウムⅡ		共創コロキウムは、社会課題の解決を志向する多様な専門分野の専門家、研究者、並びに各種ステークホルダーが参集し、各自が推進する研究プロジェクトに関して学際的かつ共創的な議論を行う場である。共創コロキウムⅡでは、共創コロキウムⅠでの議論に基づいて進められた各自の研究プロジェクトの進捗報告とともに、共創的な議論を通じて、自らの研究課題を俯瞰的かつ多角的な視座から深め、自らの研究成果を異分野間の知見・経験の融合による高度な総合知としての価値を付与できるようになる。 (1 池田恵子、2 祝原豊、3 杉山康司、4 須藤智、5 崔宰熏、6 平井浩文、7 正木祐史、8 青木憲治、9 石川宏之、10 稲井誠、11 斉藤俊貴、12 坪井秀次、13 松澤祐介、14 村田真一、15 山本好比古、16 太田美帆、17 立花由美子、18 小野晶子、19 金キョンミン、21 村上博紀/全8回、共同) 学生に研究の発表を行わせ、各学生の研究課題・成果について異分野間の知見・経験を持った参加者らと共創的な議論を行い、各自の研究成果について高度な総合知の価値を付与する。	集中・共同

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 知 創 出 科 目	グローバル共創科学特別研究 I		各専門分野の研究室に分かれ、各自の研究テーマについて、文献調査、セミナー、フィールドワーク、調査、実験などを行い、得られた結果を基に修士論文を作成するための知識・スキルを身に付ける。各専門分野における最先端の技術を修得し、またそれを用いた未知の現象の解明・新たな技術の開発を通して、諸問題を解決するための共創型研究における総合的実践力を修得するとともに、修士論文のための研究に必要な基礎的な知識、研究スキルを獲得する。 (1 池田恵子) 防災・災害対応・復興の各段階において生じるジェンダー及び多様性に関わる課題を主要な研究対象とし、実証的フィールドワークに基づく社会学的手法を用いて研究指導を行う。 (2 祝原豊) 健康体力科学（運動生理学）の手法を用いて、広義の体力や健康に関する課題を多角的に研究指導する。 (3 杉山康司) スポーツ健康科学分野における測定方法を用いた実験デザイン、実験実施から得られたデータ分析及び学術論文執筆に向けた指導を行う。 (4 須藤智) 認知科学の手法を用いて、認知心理学、認知科学に関わる研究課題の研究指導を行う。 (5 崔宰熏) 天然物化学の手法を用いて、植物と菌類との相互作用に関わる生命現象の解明を目的とした研究指導を行う。 (6 平井浩文) 地球温暖化及び地球環境汚染を解決すべく、白色腐朽菌の有する特異的能力に着目し、本菌を用いたバイオリファイナリー及びバイオレメディエーションに関する研究指導を行う。 (7 正木祐史) 刑事法・少年法を中心とした法の運用・政策課題を対象として、あるべき解釈・立法・制度論に関する研究指導を行う。 (8 青木憲治) 化学的、物理的評価法を用いて、環境配慮型複合材料の社会実装に向けた課題解決に関する研究指導を行う。 (9 石川宏之) 地方都市中心市街地の空洞化や観光地衰退の原因を研究課題とし、公学民連携によるボトムアップ型の地域ブランニングに関する研究指導を行う。住民意識調査等の手法を用い、地域社会の持続的発展に向けた方策を検討する。 (10 稲井誠) 天然物合成化学を基盤とし、材料科学と連携して高機能分子の創製を指導する。 (11 斉藤俊貴) 天文学研究における課題解決を念頭に置き、データ科学的手法の開発・実装や広い意味での科学コミュニケーションに関する研究指導を行う。 (12 坪井秀次) 企業や行政のマーケティング、マネジメント、組織イノベーションなどを研究課題とし、経営学・イノベーション学・関連分野の研究指導を行う。 (13 松澤祐介) 欧州経済統合にに対するインフラとしての交通・金融市場、金融政策を取り上げ、中東欧諸国の課題の研究指導を行う。 (14 村田真一) 社会を構成するスポーツ組織と市民の相互作用に着目し、地域スポーツ経営体に関する研究指導を行う。 (15 山本好比古) 談話分析を用いて、日常会話や職場での会話、メール文章などを分析し、その文脈、対人関係、社会的・文化的背景などを考慮し、発話者によって使われている言語がどのような意味を持つのかや、何か法則性があるのか等を追求し、円滑なコミュニケーションの手段を提案する研究指導を行う。 (16 太田美帆) 文献調査、インタビュー調査、アンケート調査等を用いて、福祉及び地域活性化等に関する研究指導を行う。 (17 立花由美子) キュレーションの手法を用いて、社会課題の解決法としてのアートプロジェクトの企画・実践について研究指導を行う。 (18 小野晶子) 糸状菌を対象に分子・生化学的手法を用い、環境・資源利用に関する研究指導を行う。 (19 金キョンミン) 環境工学の視点から、河川・沿岸域における環境問題を対象とし、物質循環・環境モニタリング・環境修復技術に関する課題について、化学的・電気化学的アプローチを用いた研究指導を行う。 (21 村上博紀) 分子生物学・生化学的手法を用いて、有用微細藻類等の代謝機構に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル共創科学研究科グローバル共創科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	グローバル共創科学特別研究Ⅱ		各専門分野の研究室に分かれ、各自の研究テーマについて、文献調査、セミナー、フィールドワーク、調査、実験などを行い、得られた結果を基に修士論文を執筆する。各専門分野における最先端の技術を修得し、またそれを用いた未知の現象の解明・新たな技術の開発を通して、諸問題を解決するための共創型研究における総合的実践力を修得するとともに、各自の修士論文の研究を遂行し、修士論文を執筆する。 (1 池田恵子) 防災・災害対応・復興の各段階において生じるジェンダー及び多様性に関わる課題を主要な研究対象とし、実証的フィールドワークに基づく社会学的手法を用いて研究指導を行う。 (2 祝原豊) 健康体力科学（運動生理学）の手法を用いて、広義の体力や健康に関する課題を多角的に研究指導する。 (3 杉山康司) スポーツ健康科学分野における測定方法を用いた実験デザイン、実験実施から得られたデータ分析及び学術論文執筆に向けた指導を行う。 (4 須藤智) 認知科学の手法を用いて、認知心理学、認知科学に関わる研究課題の研究指導を行う。 (5 崔宰薫) 天然物化学の手法を用いて、植物と菌類との相互作用に関わる生命現象の解明を目的とした研究指導を行う。 (6 平井浩文) 地球温暖化及び地球環境汚染を解決すべく、白色腐朽菌の有する特異的能力に着目し、本菌を用いたバイオリファイナリー及びバイオレメディエーションに関する研究指導を行う。 (7 正木祐史) 刑事法・少年法を中心とした法の運用・政策課題を対象として、あるべき解釈・立法・制度論に関する研究指導を行う。 (8 青木憲治) 化学的、物理的評価法を用いて、環境配慮型複合材料の社会実装に向けた課題解決に関する研究指導を行う。 (9 石川宏之) 地方都市中心市街地の空洞化や観光地衰退の原因を研究課題とし、公学民連携によるボトムアップ型の地域プランニングに関する研究指導を行う。住民意識調査等の手法を用い、地域社会の持続的発展に向けた方策を検討する。 (10 稲井誠) 天然物合成化学を基盤とし、材料科学と連携して高機能分子の創製を指導する。 (11 斉藤俊貴) 天文学研究における課題解決を念頭に置き、データ科学的手法の開発・実装や広い意味での科学コミュニケーションに関する研究指導を行う。 (12 坪井秀次) 企業や行政のマーケティング、マネジメント、組織イノベーションなどを研究課題とし、経営学・イノベーション学・関連分野の研究指導を行う。 (13 松澤祐介) 欧州経済統合にに対するインフラとしての交通・金融市場、金融政策を取り上げ、中東欧諸国の課題の研究指導を行う。 (14 村田真一) 社会を構成するスポーツ組織と市民の相互作用に着目し、地域スポーツ経営体に関する研究指導を行う。 (15 山本好比古) 談話分析を用いて、日常会話や職場での会話、メール文章などを分析し、その文脈、対人関係、社会的・文化的背景などを考慮し、発話者によって使われている言語がどのような意味を持つのかや、何か法則性があるのか等を追求し、円滑なコミュニケーションの手段を提案する研究指導を行う。 (16 太田美帆) 文献調査、インタビュー調査、アンケート調査等を用いて、福祉及び地域活性化等に関する研究指導を行う。 (17 立花由美子) キュレーションの手法を用いて、社会課題の解決法としてのアートプロジェクトの企画・実践について研究指導を行う。 (18 小野晶子) 糸状菌を対象に分子・生化学的手法を用い、環境・資源利用に関する研究指導を行う。 (19 金キョンミン) 環境工学の視点から、河川・沿岸域における環境問題を対象とし、物質循環・環境モニタリング・環境修復技術に関する課題について、化学的・電気化学的アプローチを用いた研究指導を行う。 (21 村上博紀) 分子生物学・生化学的手法を用いて、有用微細藻類等の代謝機構に関する研究指導を行う。	